

江戸名所圖會

十五

西垣文庫

文庫10

6556

15



根津權現社 上野より五町を隔て乾の方あり

祭神 素盞烏尊 伊弉諾大神 相殿 右山王權現 伊弉諾大神 源家祖神

当社境内始 甲府公 伊弉諾の地あり 根津權現ハ

大樹の文昭と 伊弉諾神より 伊弉諾神より 伊弉諾神より 伊弉諾神より

の地或賜り 宝永年中 新に当社を 伊弉諾宮ありて 結構ゆる 隨身門

は掛る 根津大權現の額ハ 大明院宮と 辨法親王の 遺蹟あり 舊地ハ千

駟本坂の上元 根津と 伊弉諾と 伊弉諾と 伊弉諾と 伊弉諾と

觀音堂 奉社の 九岡山の ありて 伊弉諾神の 遺蹟あり

当社境内ハ 假山泉水 等と 草本ハ 花四季と 遂て 絶た 實ハ 遊觀

の地あり 殊ハ 門前ハ 貨食店 齋と ありて 清人と 懇ハ 一ハ 酢哥の

聲聞新を

普賢山法住寺 谷中三崎ハ あり 淨土宗より 奉尊ハ 阿弥陀如来と

安置ハ 冥山ハ 幡隨意院 了願和尚 あり 其頃ハ 狐の高徳より 貴



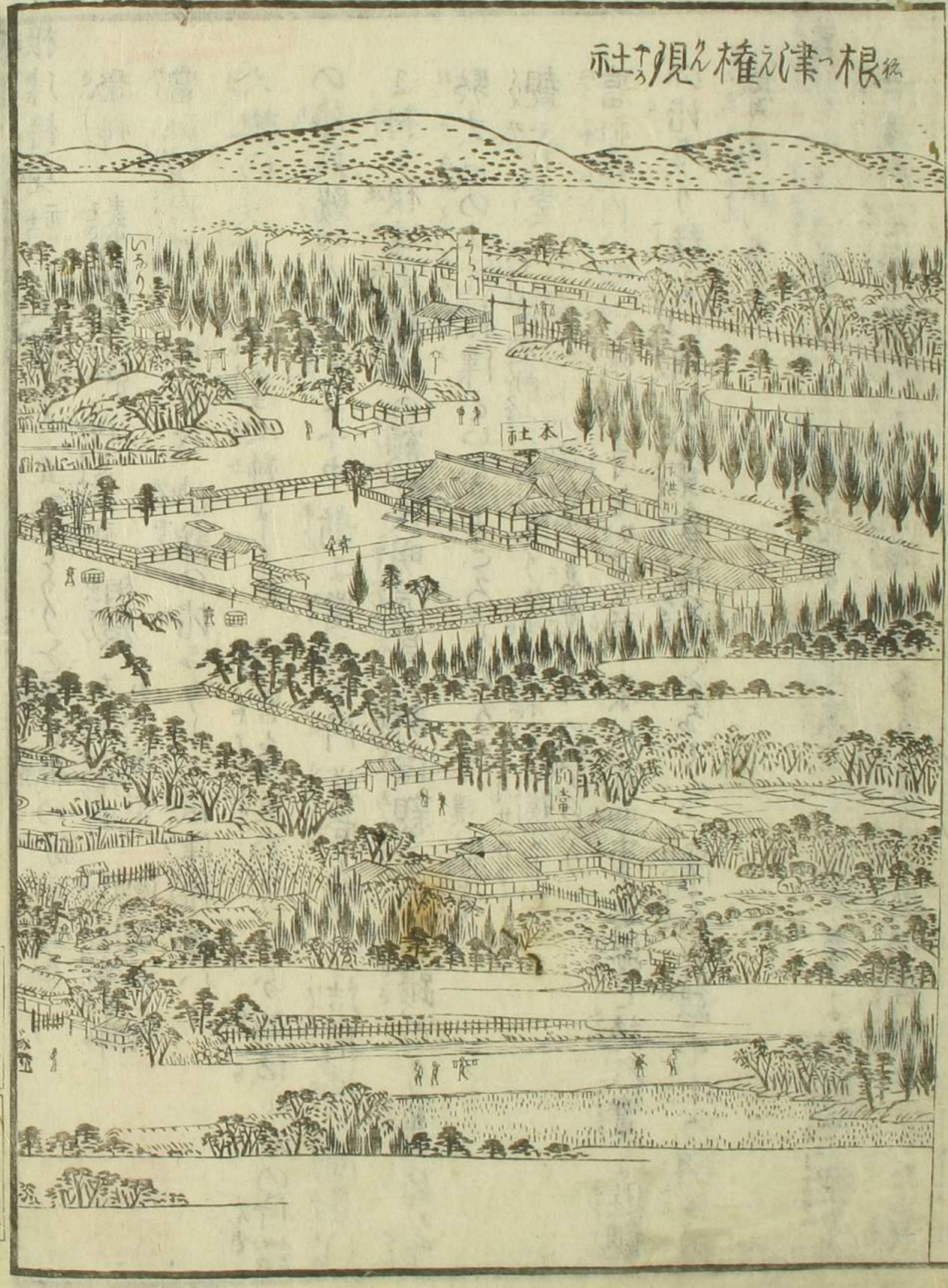
西道文庫



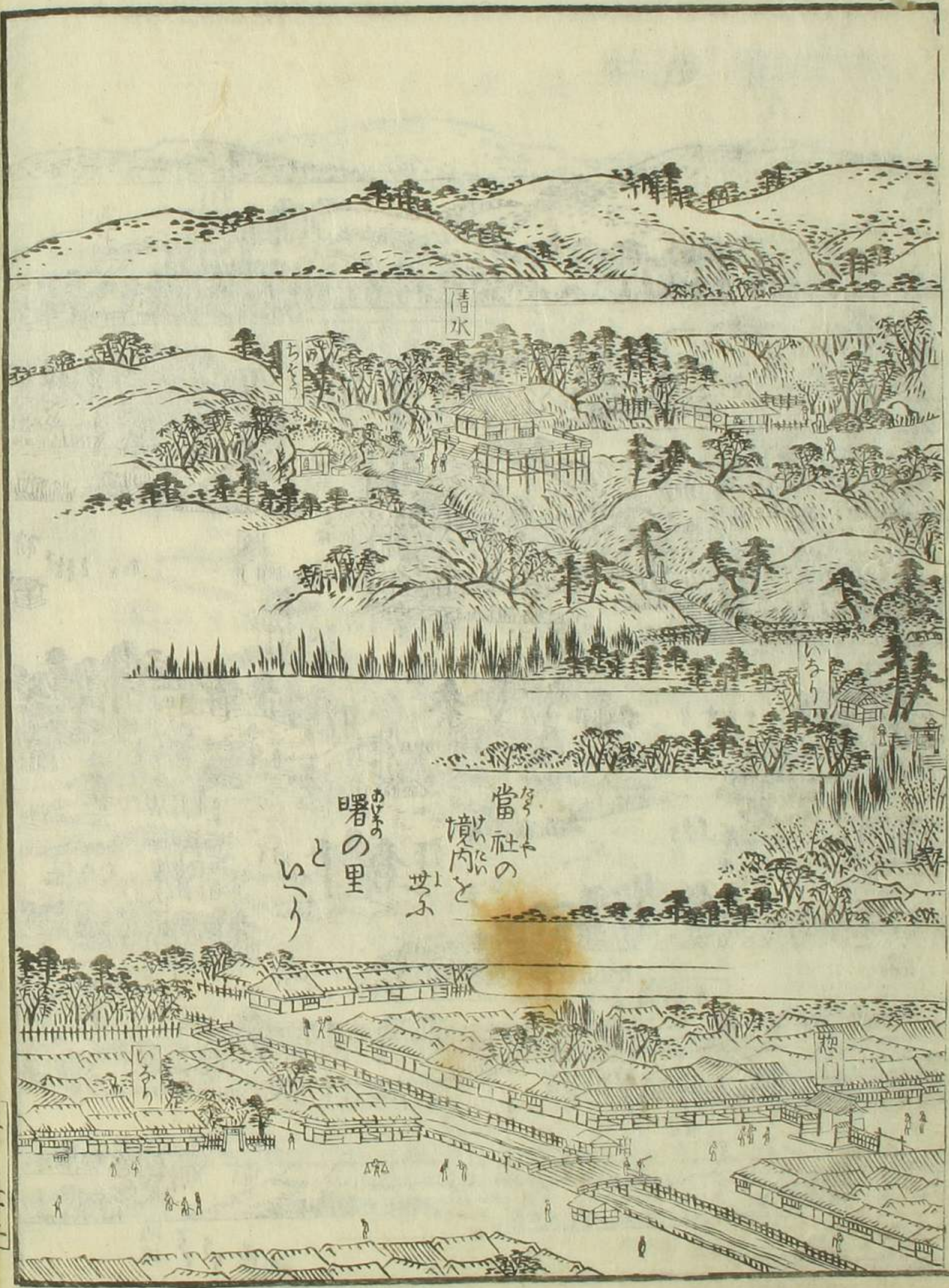


此邊雙食店あり

此邊
了
榮



根津之權見社



賤の信仰女がら宝曆年中當寺と草創其砌貴徳男女と擇り
 土破と運草一貫毎十念と授くこゝを以て老若と厭は
 日々群集し不日成就せり此地ハ清浄無塵の佛界にして六時
 禮讃の聲ハ香風と共に寂々たり

日登山妙林寺 法住寺の西小川と隔てあり日蓮宗にして天文年

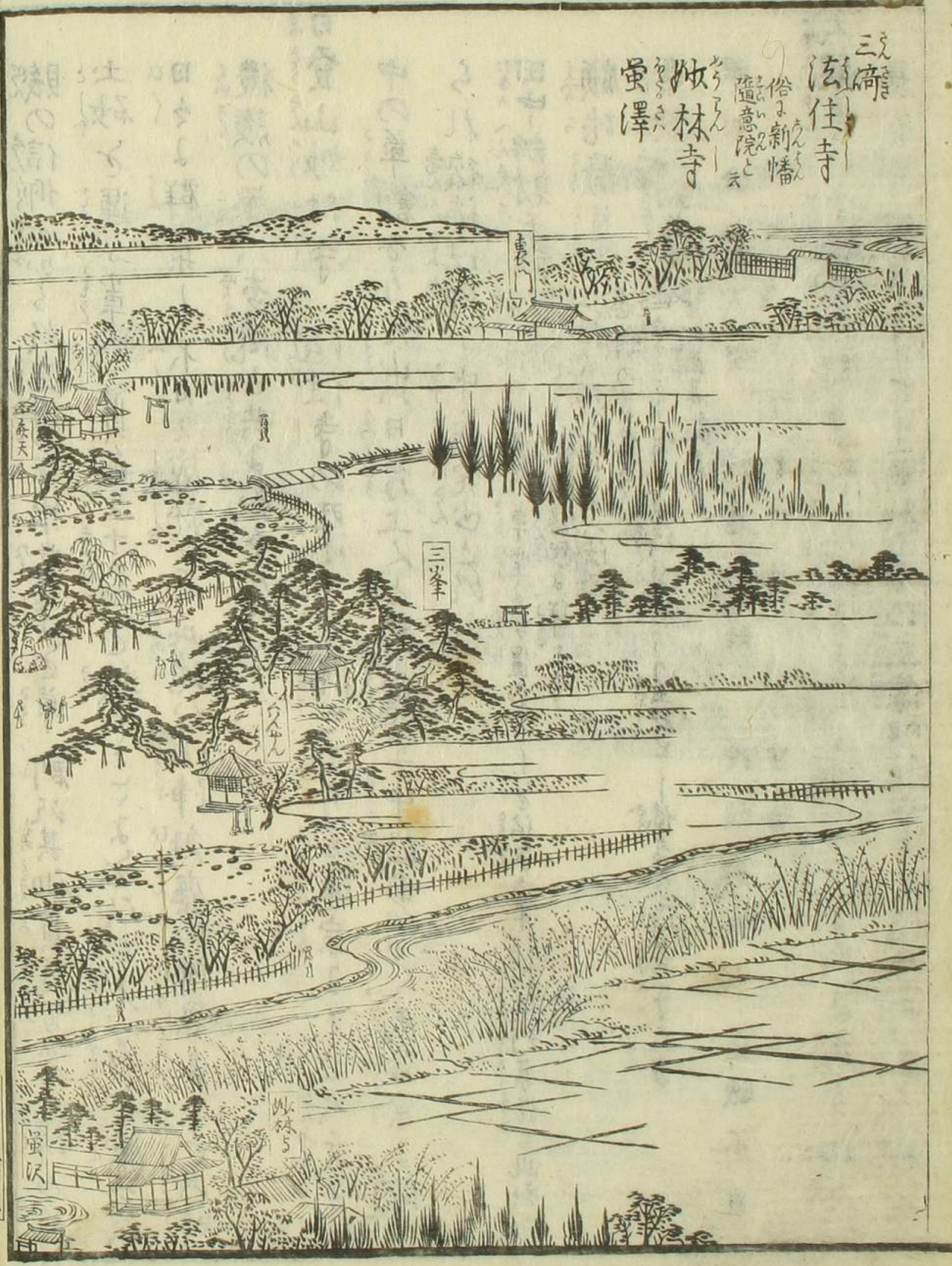
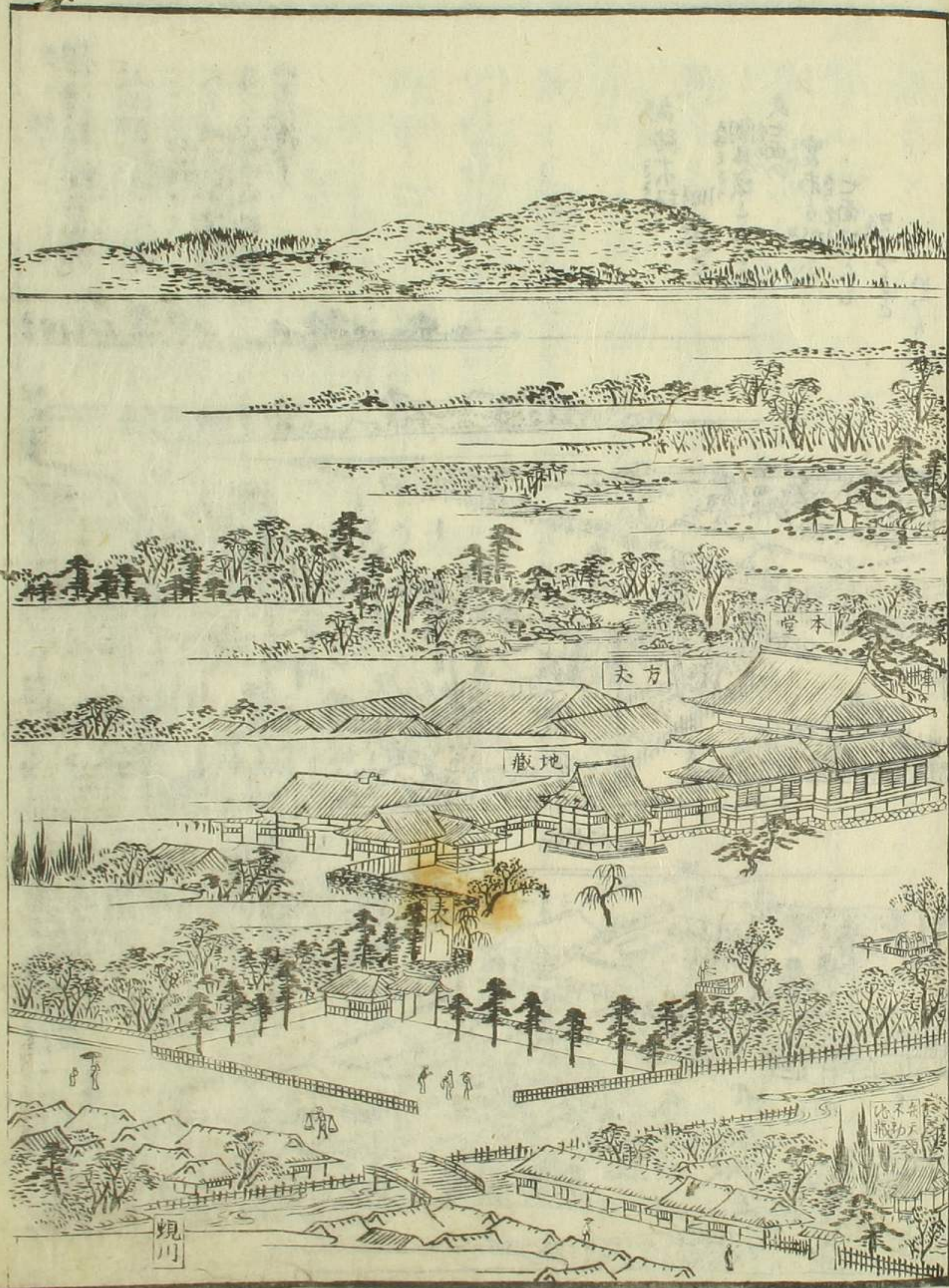
中の草創あり宛山ハ日秀上人と正徳年中故ありて天台宗に改め
 られ後海法印と中興冥心と云

田中辨財天社 昔ハ田の暇道の草堂安置ありと弘安六年に内海河某始て此社と

顧地藏尊 感得の靈像あり
 靈驗不動尊 延享三年七月八日淺草川より出せし像あり序長一丈七寸七分

讚曰 金利 石堅 神惠 佛救 授福 興徳 靈驗 不動

大觀音 千騎本七軒寺所光源寺といへる浄宗の寺内みあり和刀に
 長谷寺の寫しにて十一面觀音の立像あり又同堂内み千騎の



三峰
法住寺
俗子新幡
隨意院と云
魚澤
林寺

根津権現舊地

み法木坂のうへ終
まりの地とて
いり此道邊藝文屋
多く庭中四時草木
の花絶す



観音堂
浄心寺
又七面の
宮市が坂小
七面坂とも
弓うらと
いり

観音と安ん負享年中江府の高人丸吉兵衛あるれ是と建立は

大覺山浄心寺 丸心斤町あり日蓮宗より太田資高の妻と浄

心院日海禅尼 草創は北条五代記み永祿七年小糸氏康と里見義弘と

國府其基よて合戦の時資高とのれり妻の親をりし太田下野守

と渡り合戦は資高 棒を以て男下野守と拵殺せり軍

散して後妻此奉と聞大は歎き葬禮はころよいとあ之後長吉とより

父の菩提の爲は武具神田は浄心寺と建立はと云え 浄心寺の地は

神田はありしと小石川より川され後後今の地より川さか

按るは寺傍に太田資高の室小糸氏綱の女よりて康資の母あり依康資母後の

たは天文十九年當寺と江戸平川より草創はといり浄心の地は天文十九年とあれ

浄心寺鐘銘並序

古者論創守文二者之難矣盖無州創莫成守文

無守文莫遂草創然者皆難矣武江浄心寺山号

大覺開基祖曰成乃以天文十九年創之而九世

祖曰日真亦此之時江府大火因移地於小石川大



駒込
大観音

目赤不動堂

駒込凌香町あり

伊乃赤目山の住職萬行和尚圓の時

供奉せし不動の尊像屢靈換あるは仍て其威靈と恐れ別今これ
 像彫刻して彼像と曝籠とす則赤目不動と号し此取一宇を建
 立せり
 後年終目黒目白別して目赤と改むるとそ

揚再興之力蓋淨因所感未發佛殿方丈及厨庫書
 院而乎新成矣夫極智所照之如々界遠封疆絶方
 此觀之府内之遠近而城之外之再興今昔雖異均
 也且以今日之開基今昔雖異均是我時由今
 古之所謂云創守地易之難相推并今昔雖異均
 有斯人焉有斯創守地易之難相推并今昔雖異均
 矣鐘成乞銘於斯處焉以固陋欲不推并今昔雖異均
 淨心爲真因大離覺爲真位不推并今昔雖異均
 以名山與寺已離覺爲真位不推并今昔雖異均
 如々常寂光始無東西異鼓共莊嚴淨佛國地
 斯備晚成器使擊耳露事
 善武東漸土音聲作佛事

丸山まるやま
浄心寺じやうしんじ



諏訪山吉祥寺 同取壹所とあり北の方より曹洞の禅宗より江戸

檀林の一あり因て禪檀林と号し 説話明神の敷地を破り説話山と奉尊ハ

釋迦如來冥山ハ青巖周陽禪師あり當寺ハ長禄年中古田持資

江戸棟と管一頃かこ井と堀一土中より吉祥増上の文云

あふ銅印と得をり依古瑞ありとて二宇と建直は吉祥庵と號く

其後北条幕下遠少丹波守中興ハ天正年中序珠

序道管の時 神田の臺と賜ひ寺領等と附せられ遂に

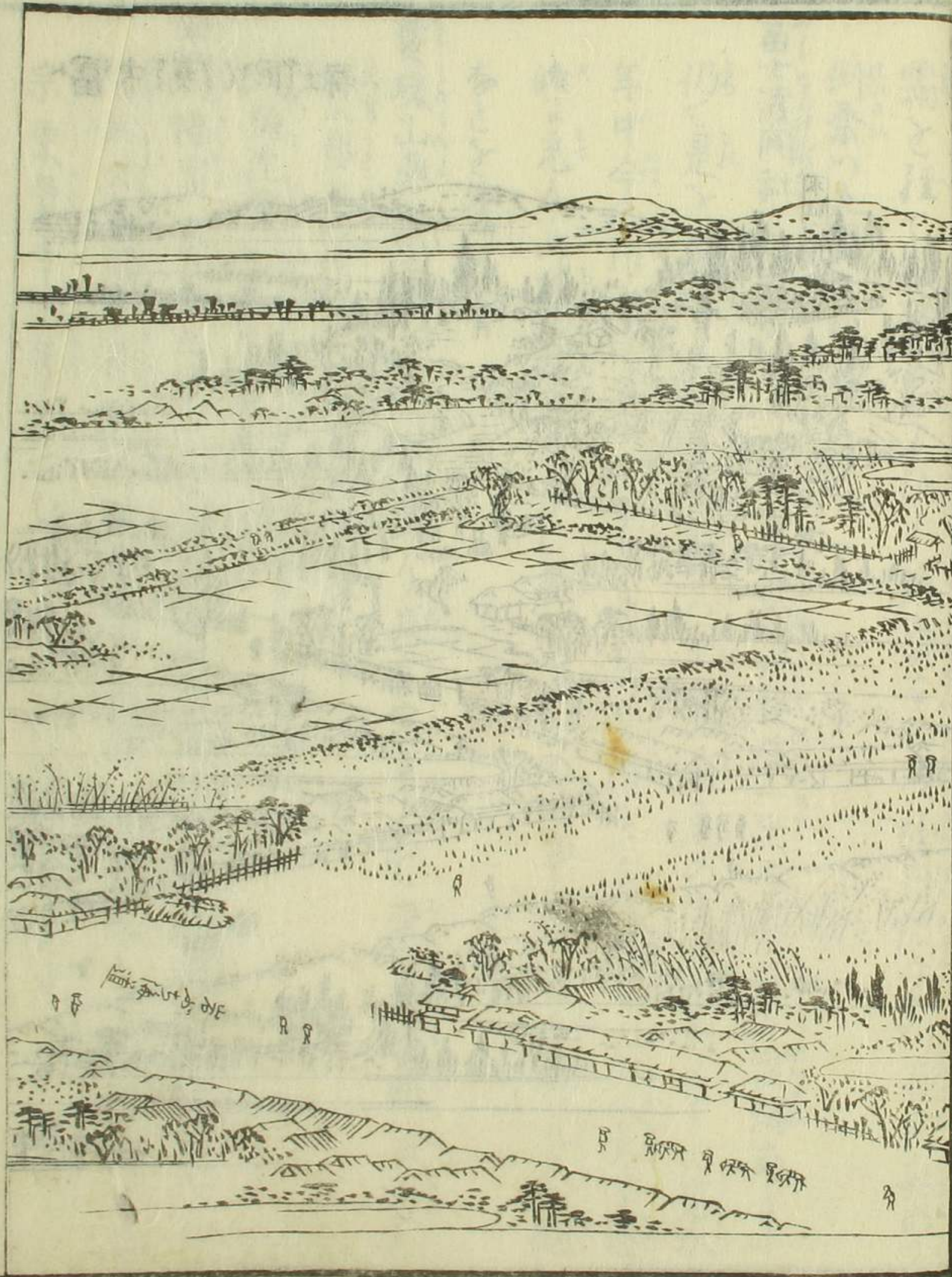
明暦三年今れ地よりうら

駒込神明宮 同野二下より北の方より社傳云文治五年右大將

頼朝公眞品征伐の時靈夢の事あり々其朝此ありは社地を

求め索り一松株の枝は大麻のかけれるあり公是と拜しは是靈

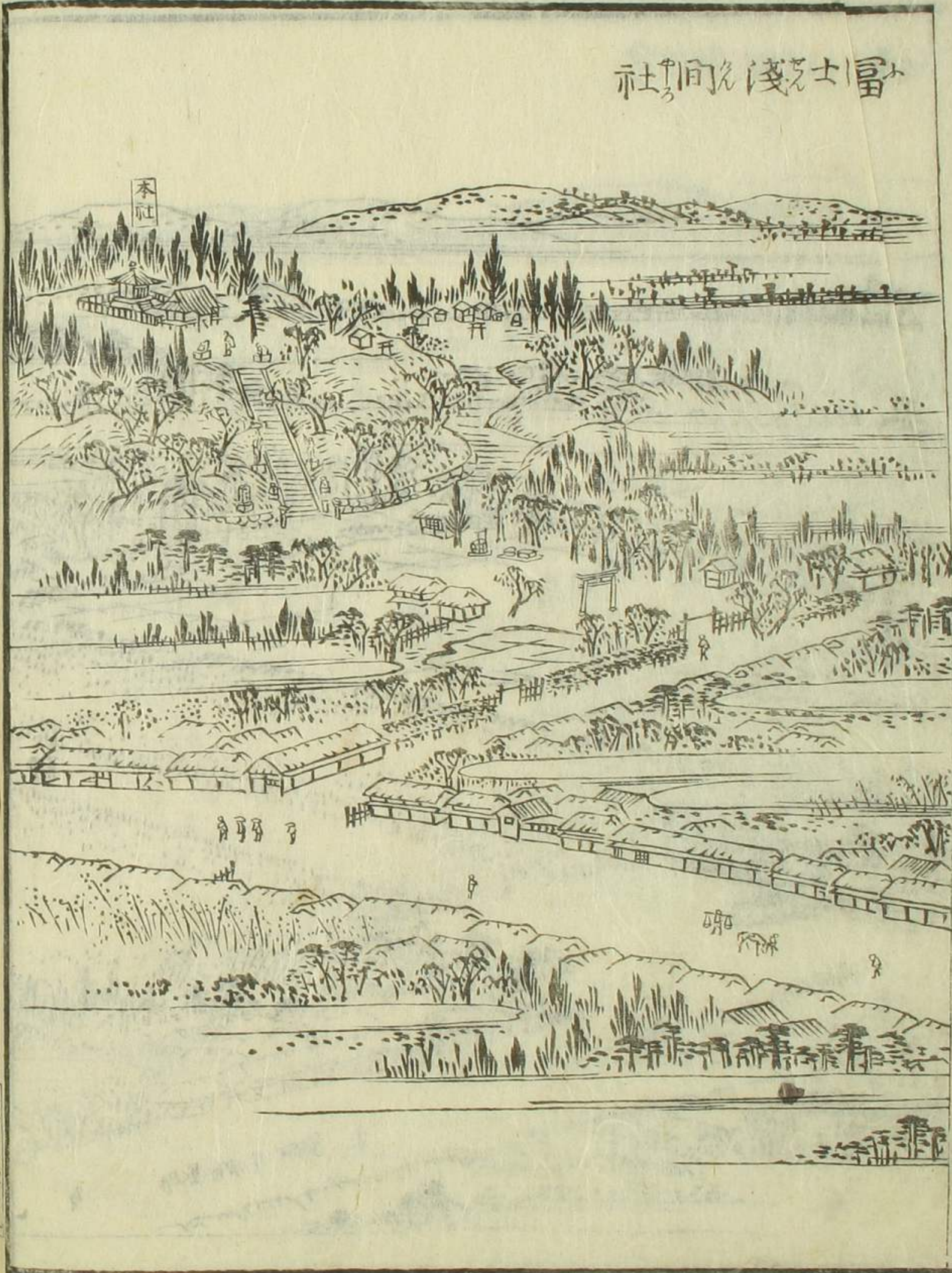
夢の應ありとて直ふ其地は神明宮と勧請はと云 其後多くは星



駒込神宮明宮



富士浅間社



霜と狂て破壊よとよひ一城慶安の頃堀丹波守利直再興あり
例祭ハ九月十六日あり

富士浅間社 同取あり祭神木花元那媛一坐あり往古靈瑞ありふ
仍て是と鎮坐といへり當社昔ハ奉々加刀切彦の後園あり一寛永
年中今の地ニ迂さる毎歲六月朔日祭禮まで前夜より詣人多く道
路ニえり此地の産物として麥藁細工の地ありひよも倉倉五文の細
あとも強南く

寶珠山興樂寺 田畑村あり真言宗ありて奉尊地藏菩薩ハ

佛ニ春日の作元心ハ行基大士あり

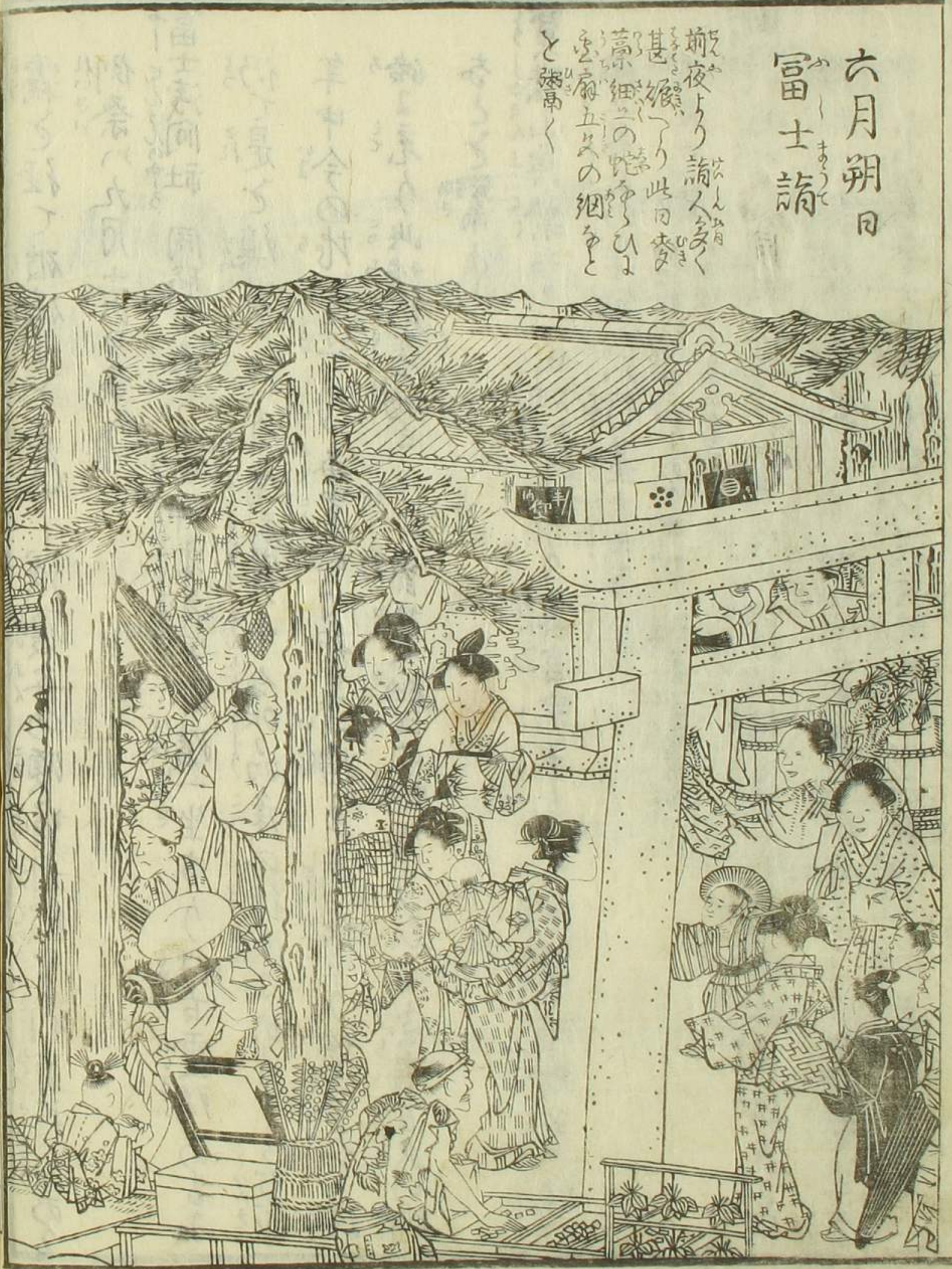
阿彌陀堂 奉堂の方あり奉尊ハ行基菩薩の作

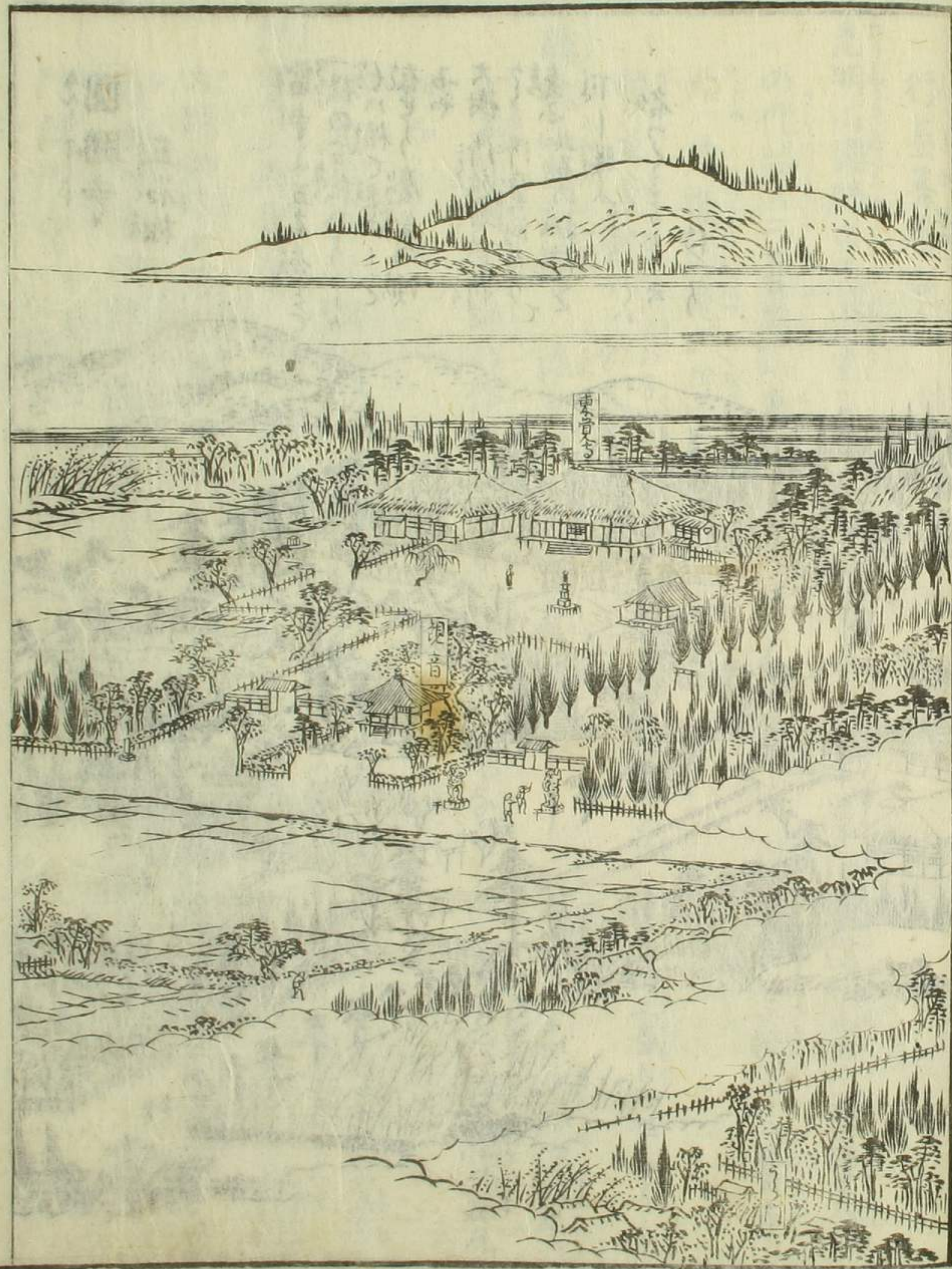
田畑八幡宮 同不西の方あり田畑村の鎮守とす相傳ふ文治五年

頼朝公勸請す昂駒込神明宮と同時の落座なりと云別當ハ真言
宗東覺寺と号して弘法大師の作の不動尊と奉尊とす元心ハ

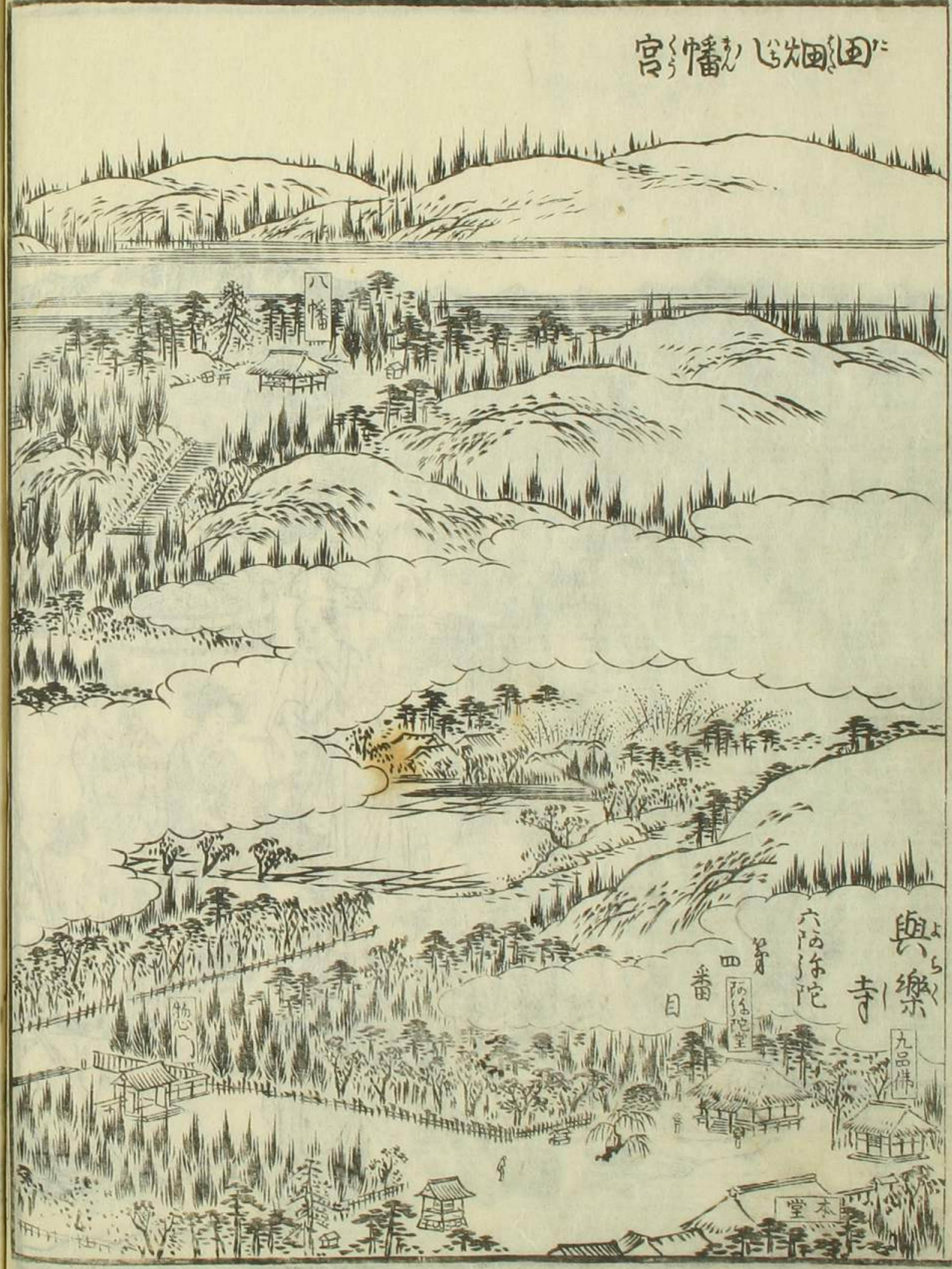
六月朔日
富士詣

前夜より詣人多く
甚賑あり此日亦
藁細の蛇をひき
玉扇五文の細を
と強く





宮幡山園



與樂寺
六阿陀
四番
九品佛
堂本

圓勝寺

五石松

當寺は五石松あり一
株の古松あり一
女八栢て名ありと
敬むる慶長の頃
あや
大樹 寺放尊の折
寺 浄徳河ありて
李ふ 五石の遊行と
下し 賜ふ
谷つくより云
伎へり



行基菩薩あり

光明山圓勝寺 中里あり浄土宗より奉尊阿彌陀如来ハ慈賢大師

の代脇士ニ菩薩ハ惠心僧都の作り宛山ハ深蓮社聖法上人當寺

始ハ浄珠内竜の口あり一とを

勢至堂 奉堂の右のふの丘の上あり三尊の浄陀佛とあり俱小佛工春日の他あり今

藤林山西福寺 漆井村あり真言宗より奉尊ハ阿弥陀如来

と女ハ徳一大師の作り當寺ハ杖女の地ありといへともを殊勝の林尼

刹あり

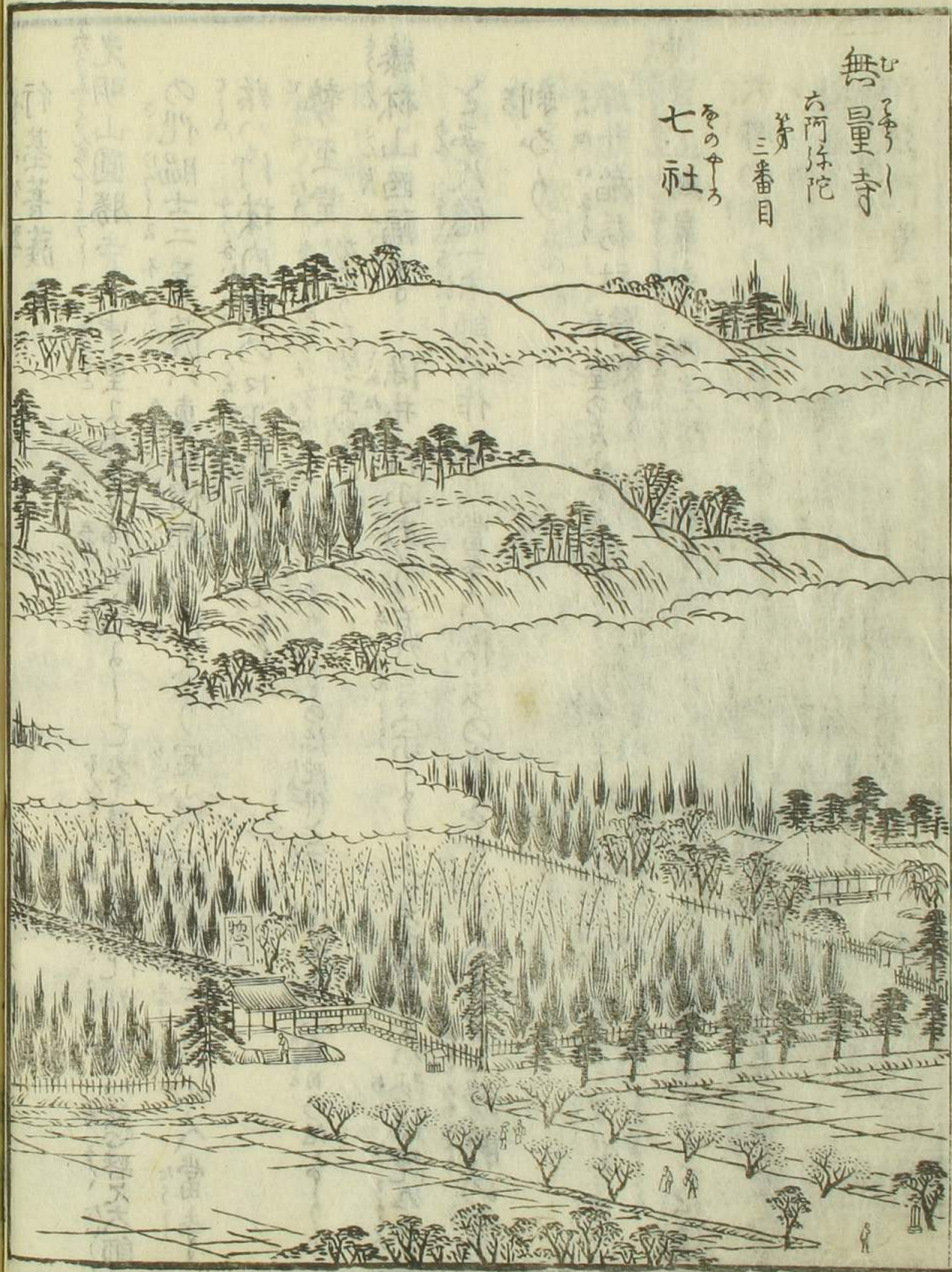
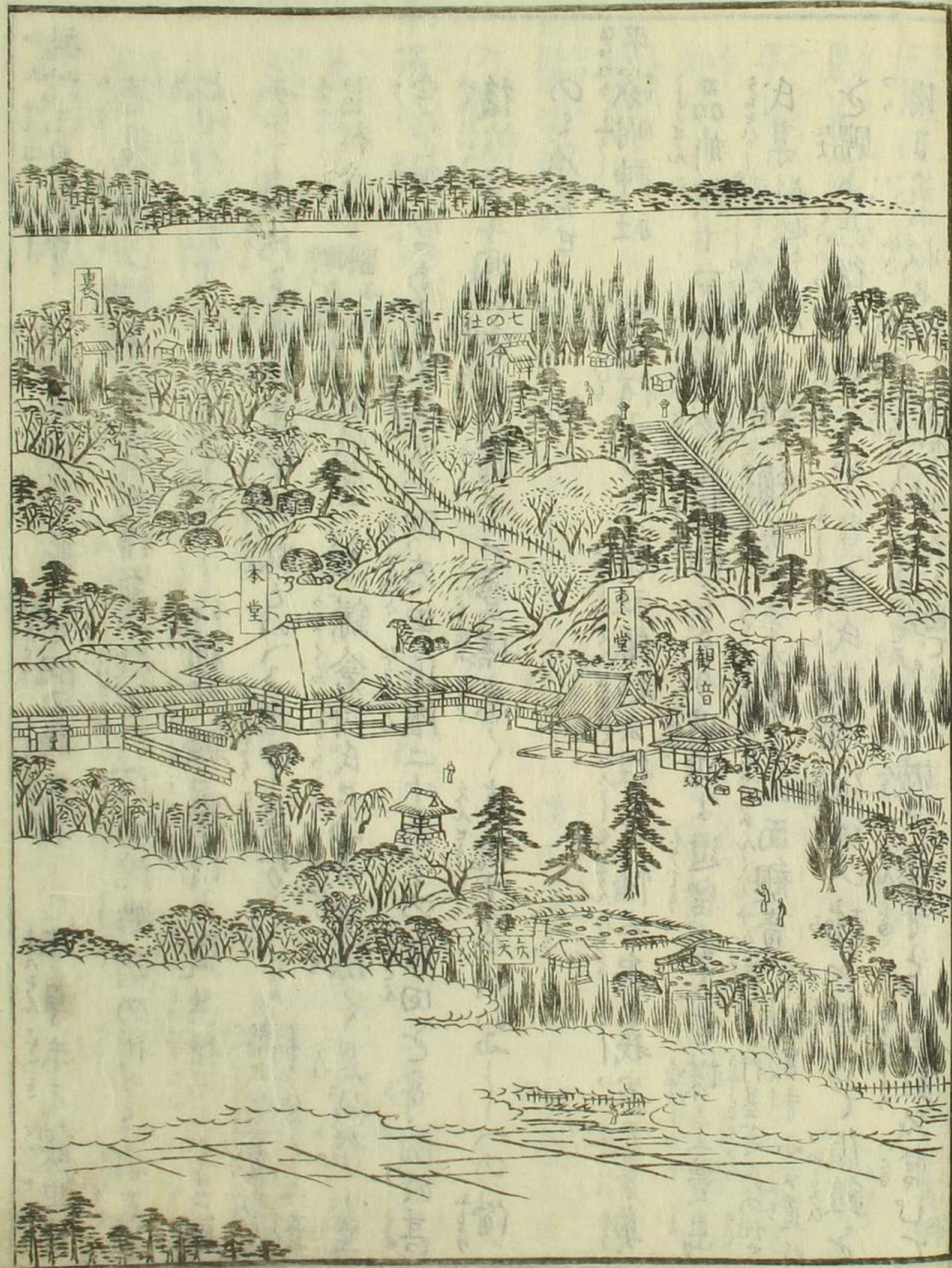
漆井稻荷社 奉堂の左あり往古よりの鎮坐ありて漆井一村の鎮守也若此不漆井と

佛寶山無量寺 西光院と号ハ同坂北の方西原小あり真言宗より弘法

大師の作の不動尊と奉尊とハ冥心ハ行基菩薩あり奉堂小あり

南無阿彌陀佛の額ハ幡随意院不願和尚の筆あり

阿弥陀堂 奉堂の右あり奉尊ハ行基菩薩の依



無量寺
六阿彌陀
茅
三番目
七の社
七社

神陀山昌林寺

同所西の方より曹洞の禪宗より奉尊未本觀世音菩薩八宝山行基菩薩の作り往古六阿陀彫刻の折々未本を以て代りたりひとそむる一補陀洛壽院と號其後久く荒廢

小とよみ狹子應永年中祥林といへる僧中貞勢より後又宗最和尚に

昌林寺と號以同十八年鎌倉持氏公の母堂深く是成信一堂

宇を修營あり又文明の頃右田道灌二十余丁の畝田を寄附其

後大永年間の兵火は罹りて堂塔悉く炎焼す今はいふ一の傳

のそ成存せり

平塚明神社

平塚村小あり當社縁起云往古八幡太帝義家兄弟與

刀刃前後十二年の戦終凱陣のころ此地に逗留ありて城主豊島

氏某義近ともそり鎧一領并小守奉尊十一面觀音今津宮寺小安置

を賜ふ其後元永年中豊島氏城内清浄の地を擇びて彼鎧を

塚に築亦収め塚の形高きとて以て平塚と城の鎮守とす且社成營じて

三連枝の像成女

平塚三所明神と号は新羅三所義光

是義家兄弟の武功と欽崇且武運を祈らん為なりと云別當と

平塚山津宮寺といひ安樂院と号は津宮寺の末は平塚阿弥陀

如來と安す流檀佛毘首羯磨の天の昔筑紫安樂寺の僧田圃修行の初

此像とて小安置せりとそ

白鬚明神社

同所畑の中より糸神ハ猿田彦命より豊島氏

の勧請より往右ハ平塚の株中ふありとそ

平塚株跡 平塚明神のありより飛鳥山の辺迄といふ鎌倉大

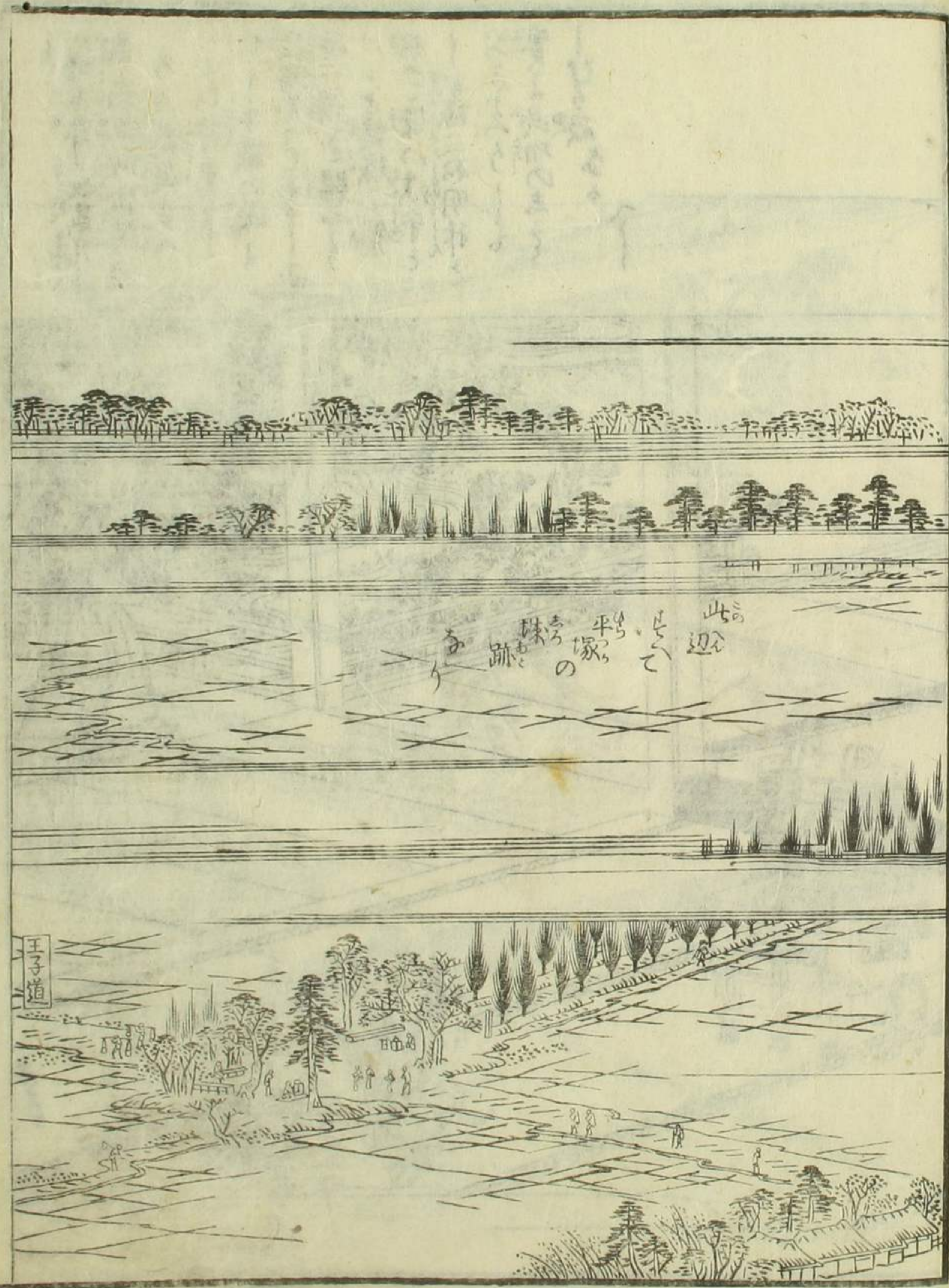
草紙云文明九年四月十三日道灌江戸より出て出豊嶋平右衛門尉

左衛門と頼ける

同石神井の株練馬の兩株より出攻来りられハ

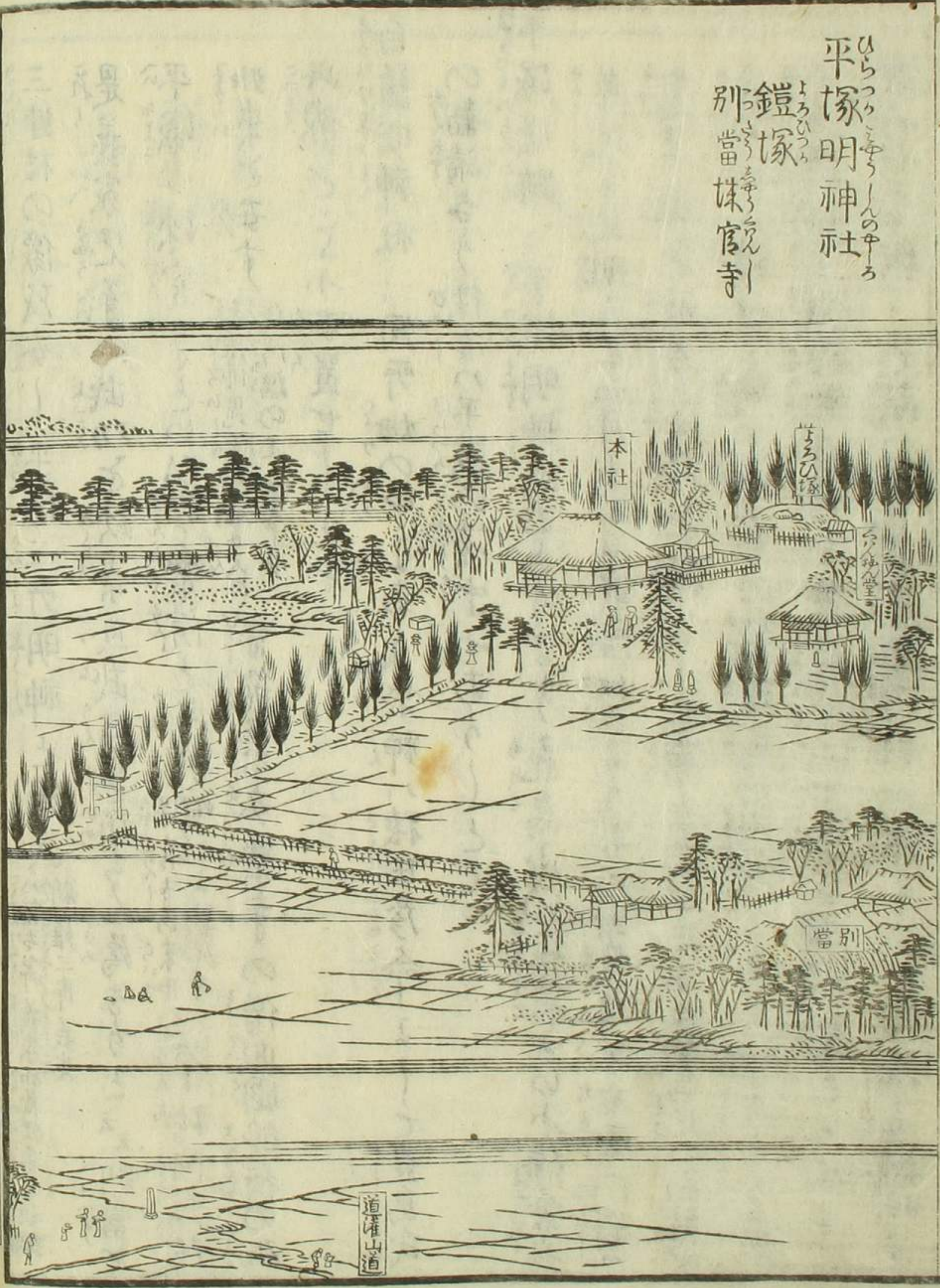
右田道灌上杉形部少輔千葉自胤以下古田沼袋と云知り

馳向ひ合戦して敵ハ豊島平右衛門尉と略として板橋赤塚以下



此の
邊
は
平塚
の
跡
を
示
す

王子道

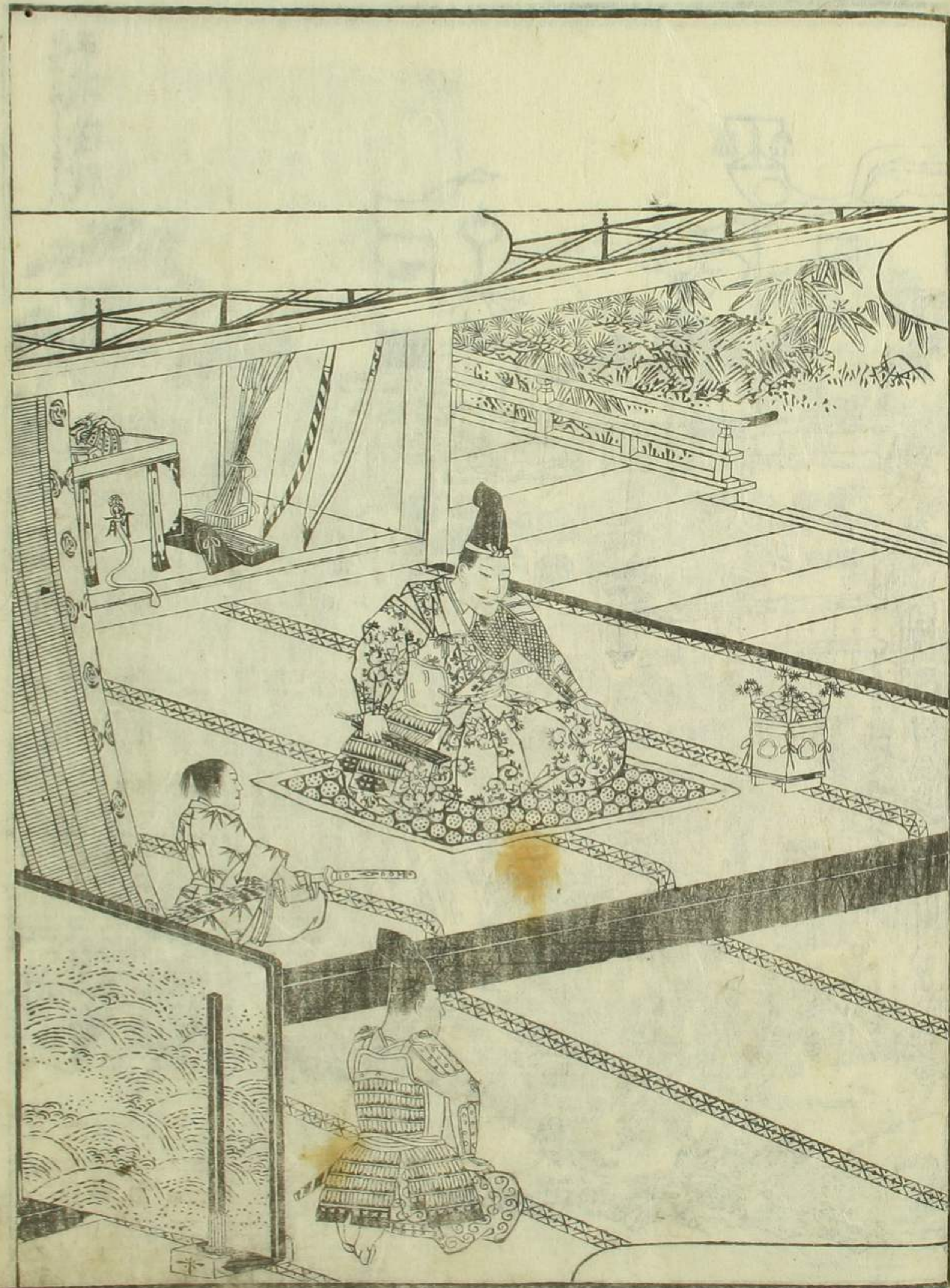


平塚
明神
社
の
中
に
あ
る
別
當
塚
官
刹

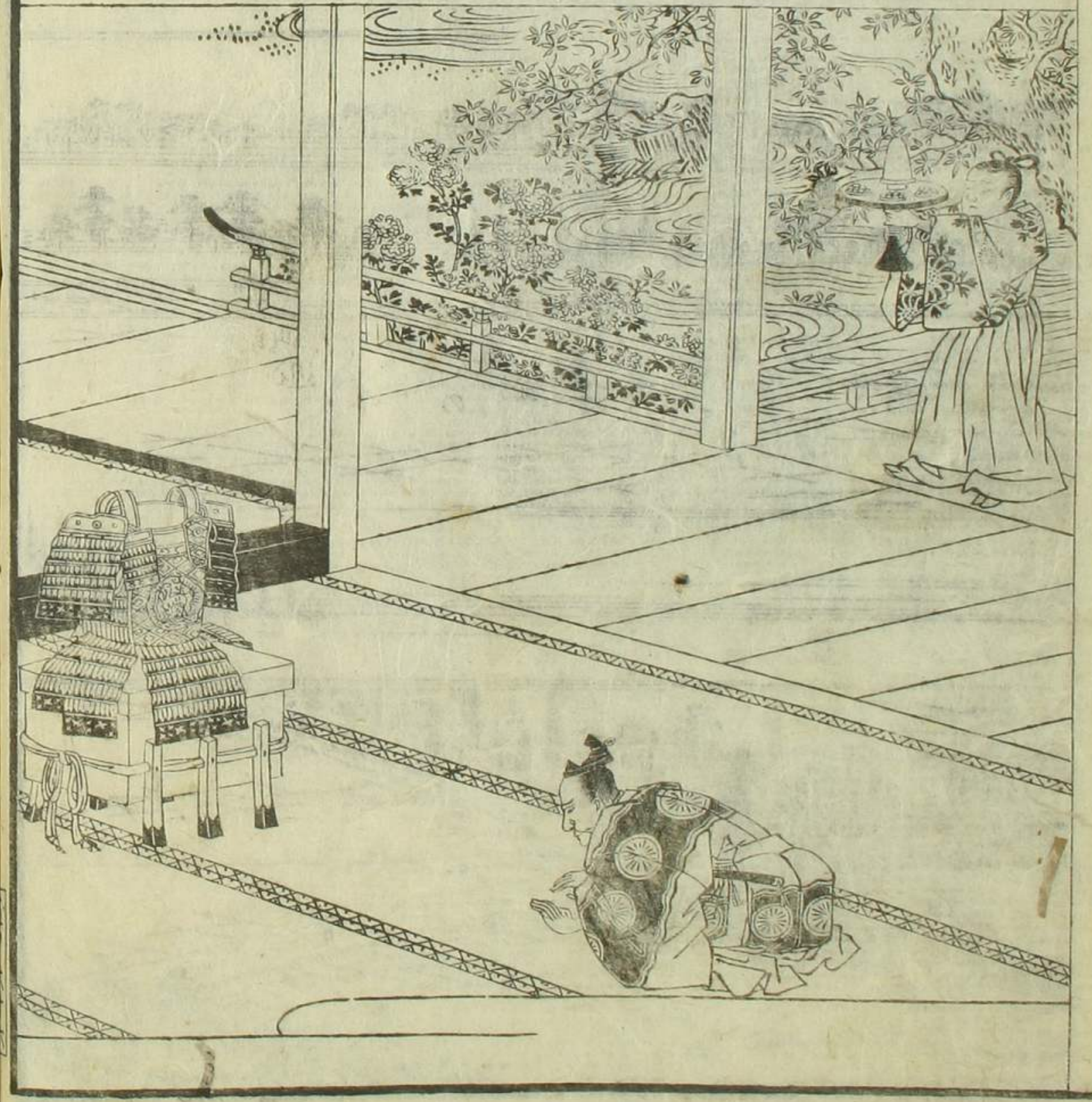
本社

別當

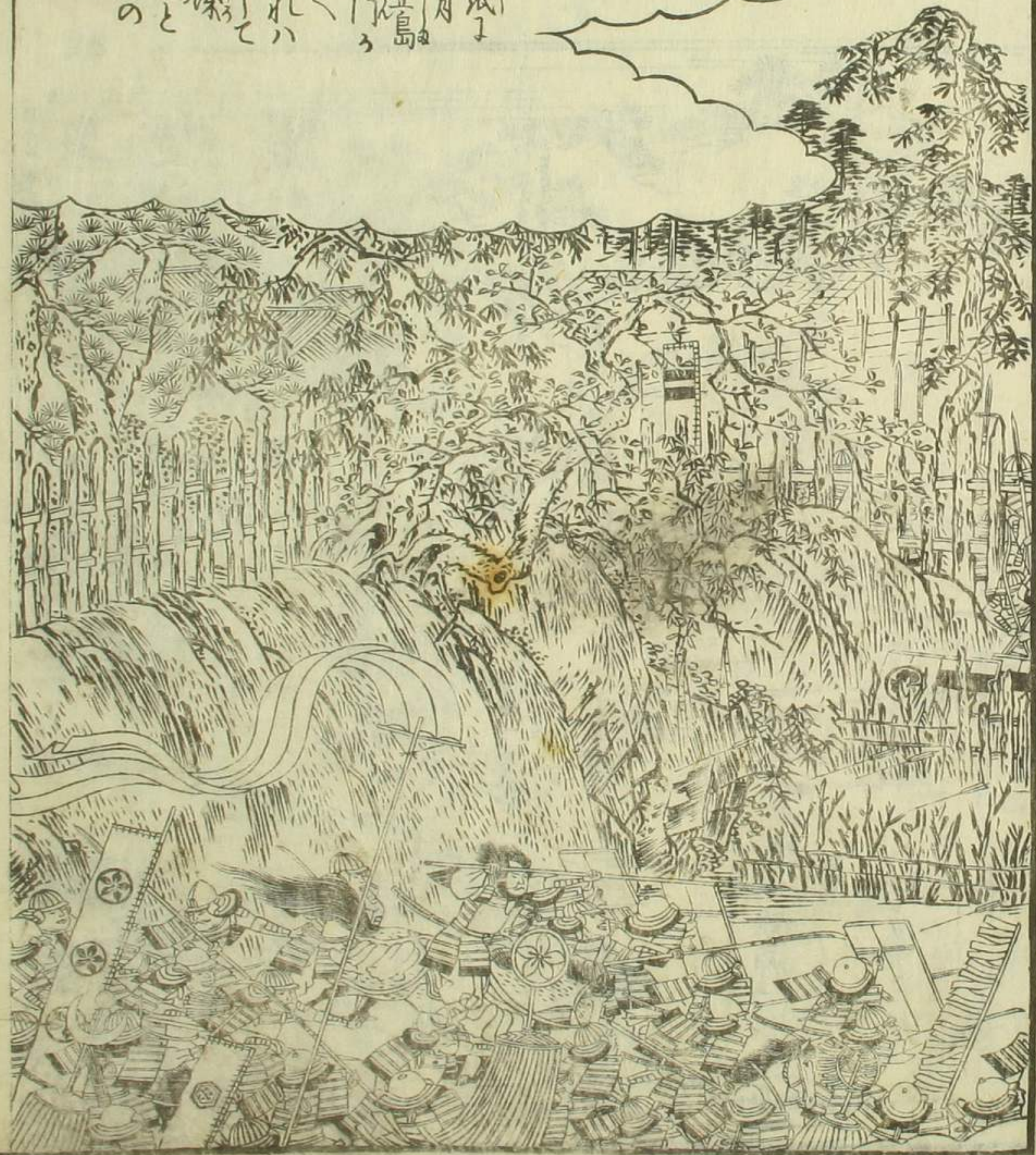
道灌山道



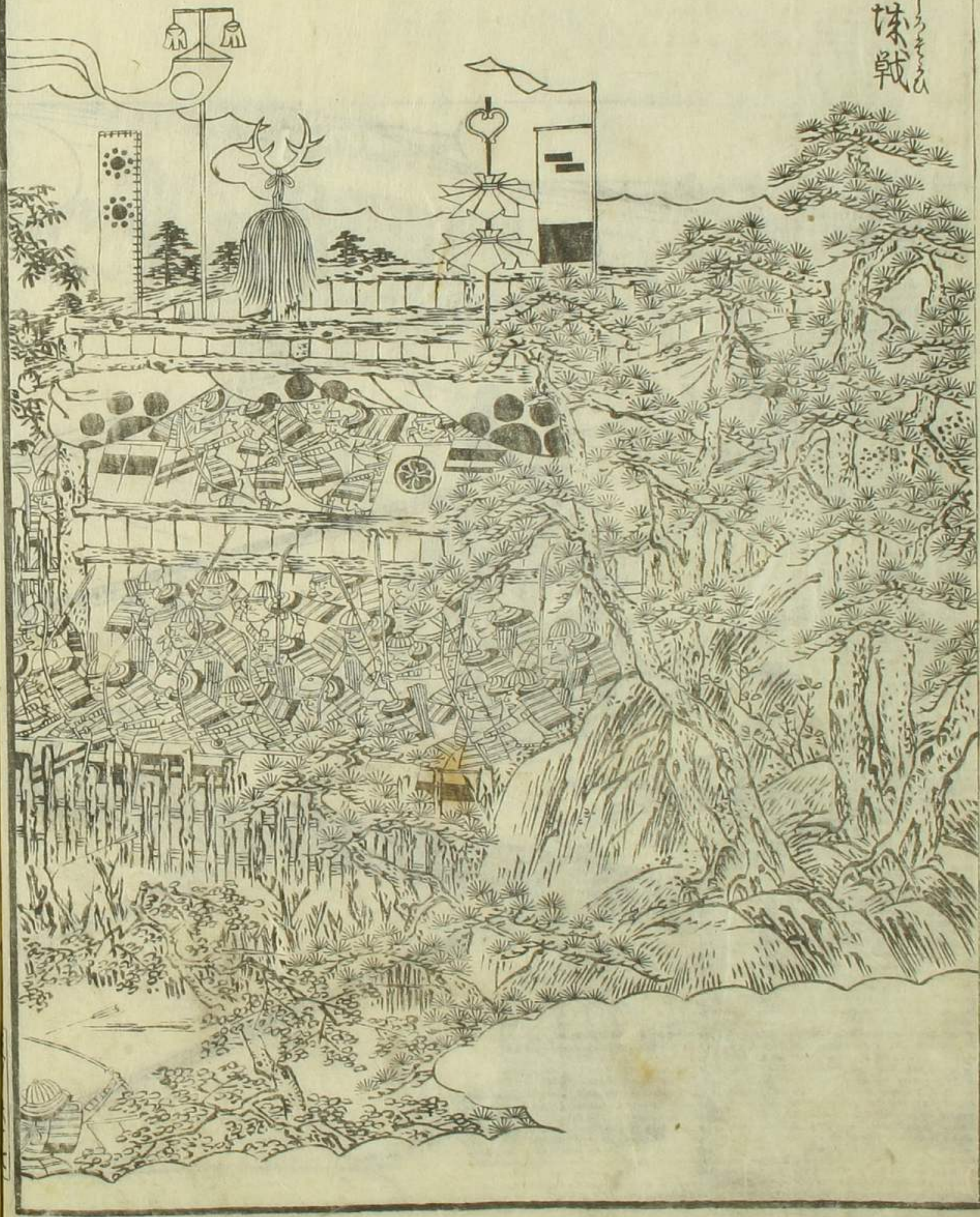
八幡を尋義家兄弟
 奥の加征伐凱陣の
 ころ武藏國に入
 たふ以豊島某う
 住し平塚の株と
 逗留ありてあふふ
 禮一領と賜やう
 けと後塚と築
 収めて株の守と
 一平塚三不明井と
 いつさあつりしも
 實は武功の志々
 一むら極ある



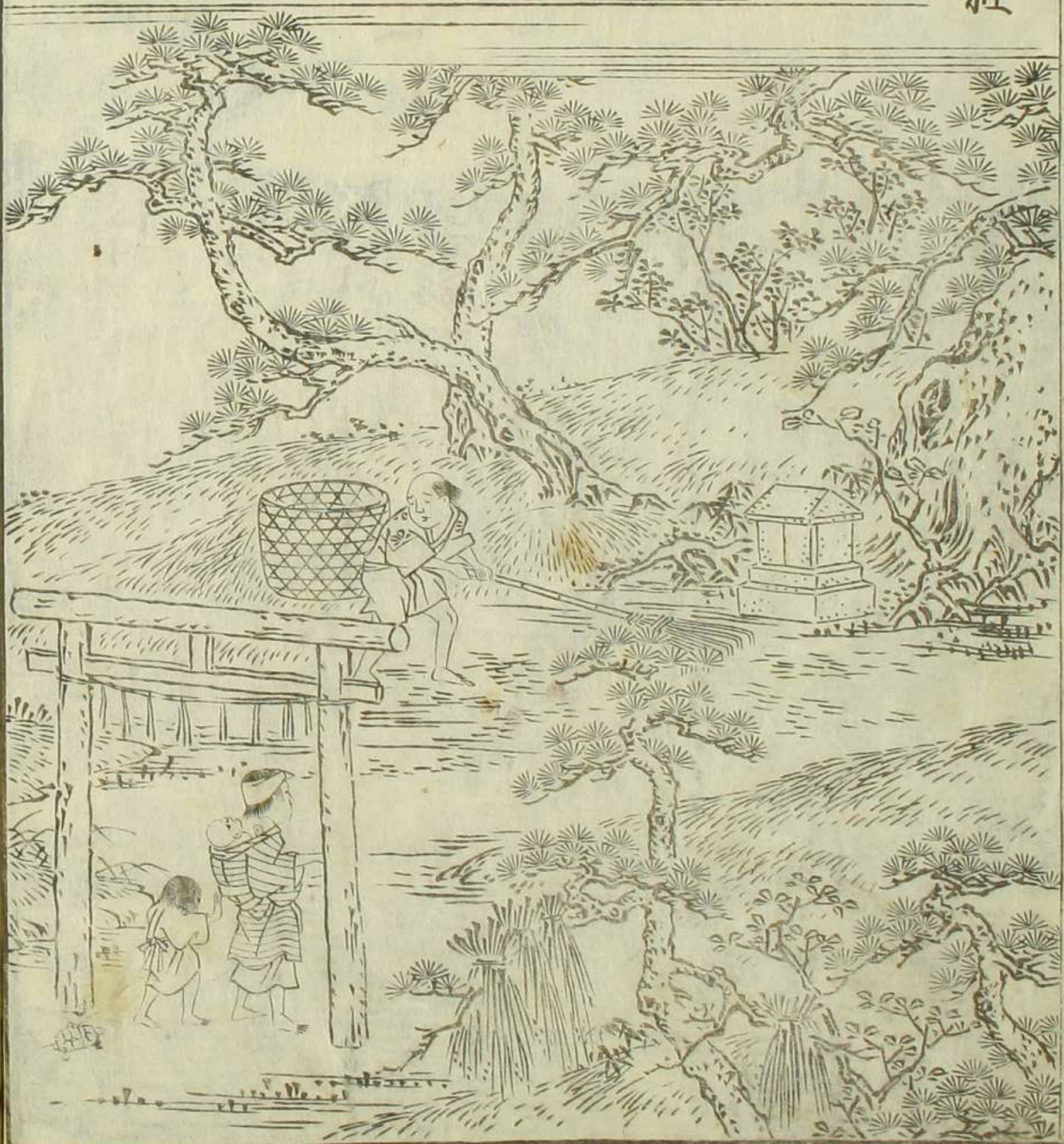
鎌倉大草紙
 文明十年正月
 廿五日 道灌 豊島
 勘解由左衛門
 平塚の要害
 押寄 貢 九
 其 境 設 備
 敵 九 同 珠
 小 札 の 本 記
 あ り 此 平 塚 の
 事 あり



ひらつかのしんき
 平塚城戦



白鬚明神社



百五拾人討死す 中略 同十年正月廿五日豊島勘解由左衛門平塚の
 要害一押寄責々れ其曉没落して敵ハ九間株小机の株は
 籠と云

大追物上覧地 同野道より右の方畑の地を指て云詳小林春齊先生
 の作せる大追物記不出きり

飛鳥山 數萬歩小絨たる芝生の丘にありて春花秋草夏涼冬雪
 眺めるの勝地あり始元亨年中豊島左衛門飛鳥祠と移す

命あり 因て飛鳥山の号あり寛永年中王子権現御造営の時此山
 上はあり飛鳥祠と遷して権現の社頭は鎮座をりたり其後元文

の頃 台命よりつて楡樹數千株と植させらる内は遊觀の便と
 外は葛葉の爲ます年と越て花木林とある爾より騷人墨

客はると摘章と尋ね牧童推夫の袂と刈薪ととる殊よこはらま
 中よひの頃ハ楡花燦爛として尋常の觀はありは熊野の古式よ

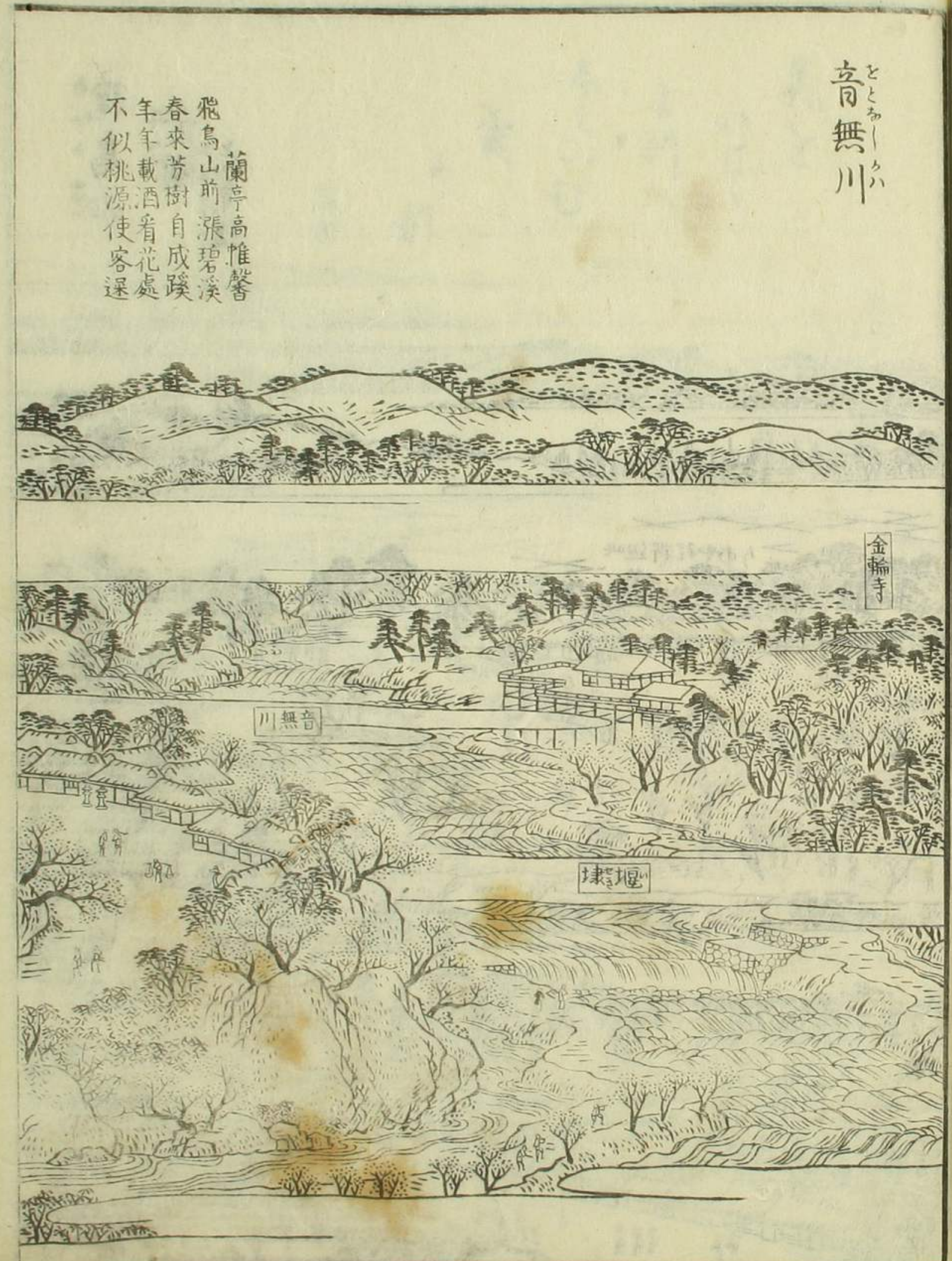
春ハ花と以て祀るといふは相合する所の歟
 元文四年の春冬泉前大納言為久が殿東下向の坊々鳴島信通ふ命にて此山のまじを
 為久々へ贈りしれり云々
 飛鳥山といふ所の花をそ人の見せたる若木の枝の株より取りて此山にまじ
 世は似たりと云ふなり
 震の雲よとてむるをりふまじ

折枝の久香をとすは飛鳥山花の取れ共も志すれ
 鳥久

明年再び下向の時伊奈介今年ハ花も作見せさるる
 候ともしつけぬ飛鳥山の山様こそこの云々の及や子れ
 とありしうのいと金輪寺へ仰あつて一枚の花をよめりせあれをもたせ品川の宿ふて
 作見ふれけり

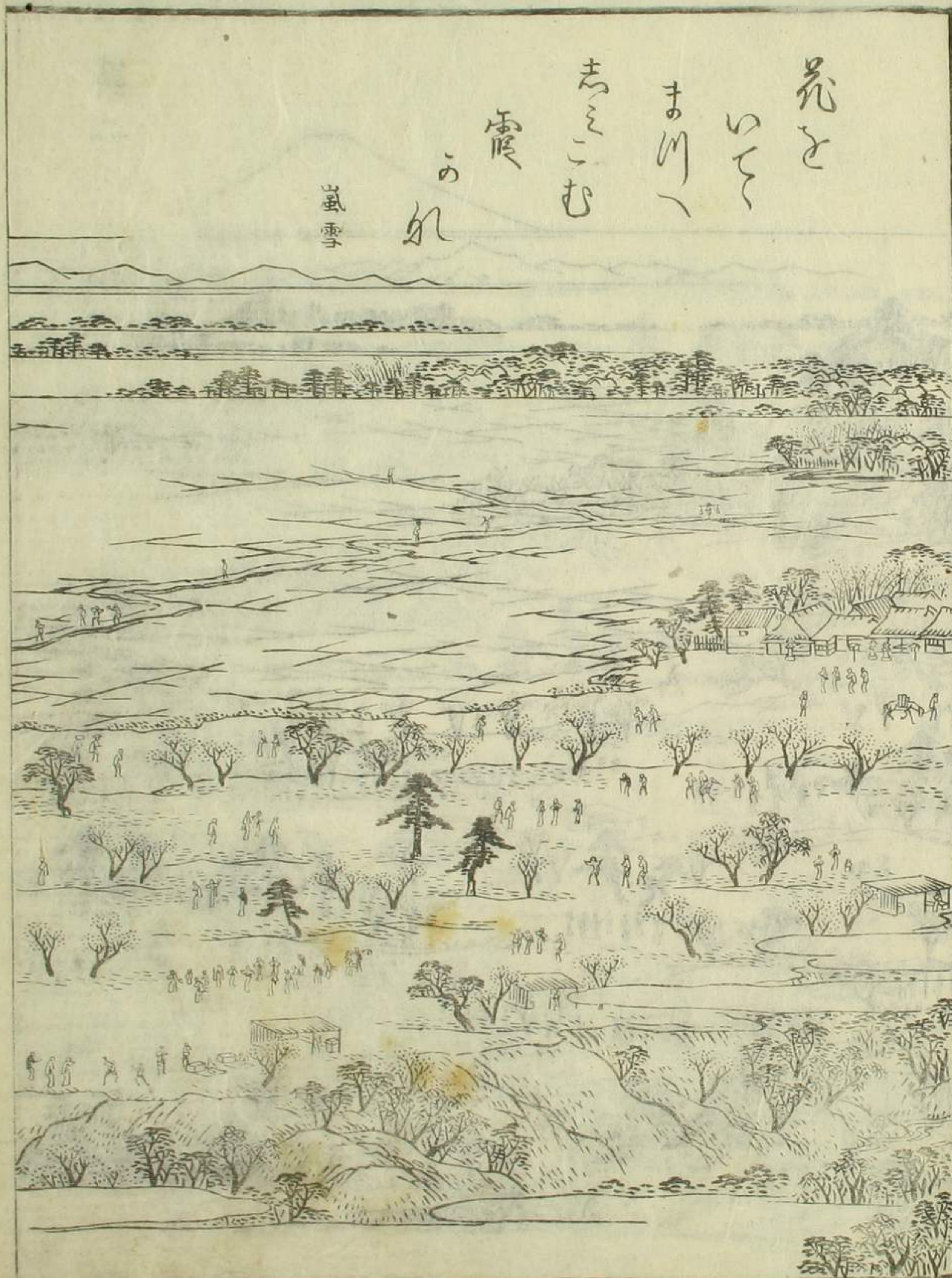
飛鳥山碑銘並序
 惟尊也配祀伊諾尊山有神曰熊埜之神實伊
 冊為飛鳥配祀伊諾尊山有神曰熊埜之神實伊
 別曰為飛鳥配祀伊諾尊山有神曰熊埜之神實伊
 誌曰為飛鳥配祀伊諾尊山有神曰熊埜之神實伊
 為熊埜之神實伊諾尊山有神曰熊埜之神實伊
 熊埜之神實伊諾尊山有神曰熊埜之神實伊
 昔祀之如川音無川流象熊埜之神實伊
 吹之旗之如川音無川流象熊埜之神實伊
 其來也尚矣而世之遊祠宇荒壤日鼓吹歌舞之
 永中有司奉命祇飾祠事乃因故北新之遂遷飛鳥

音無川



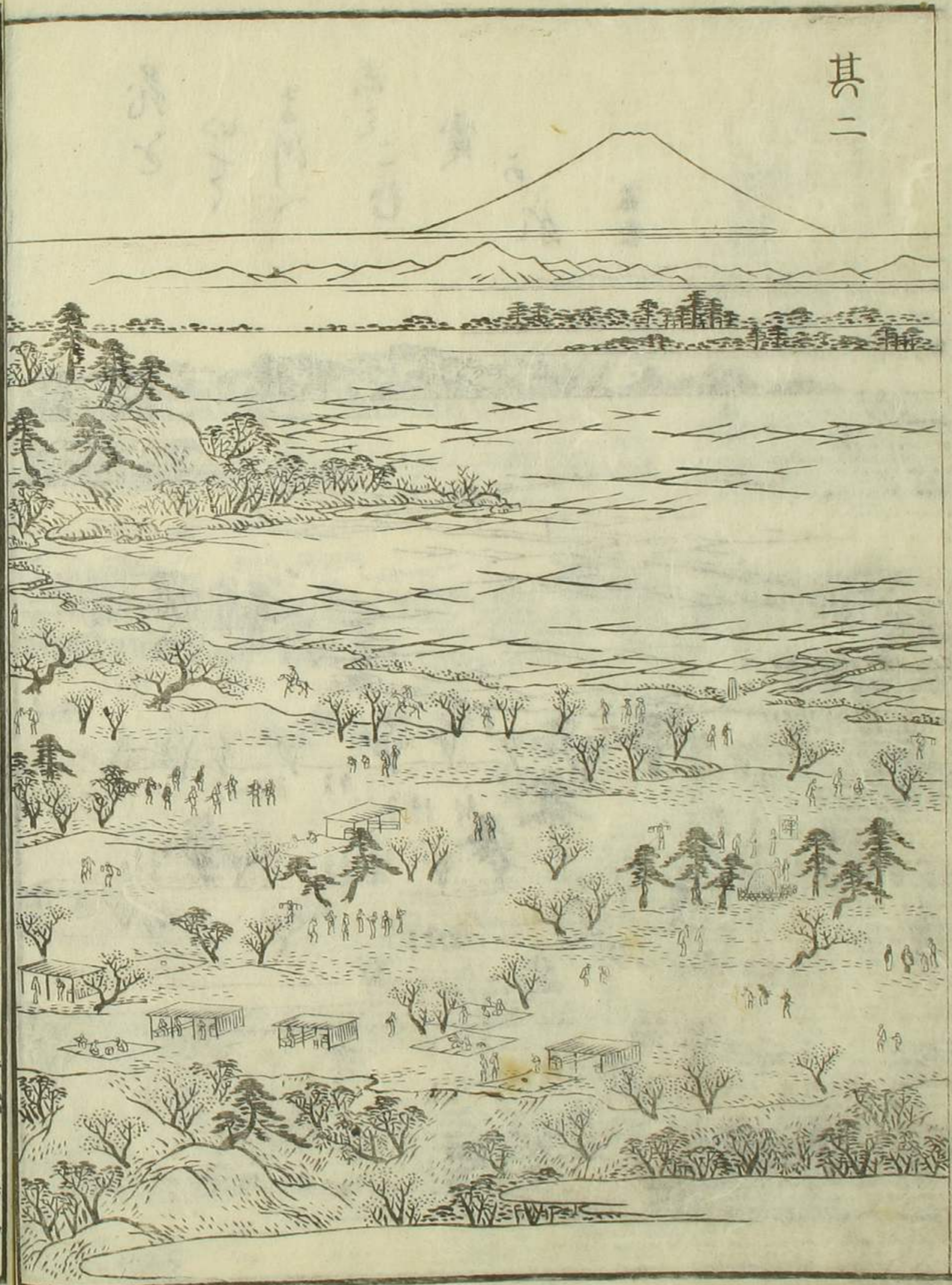
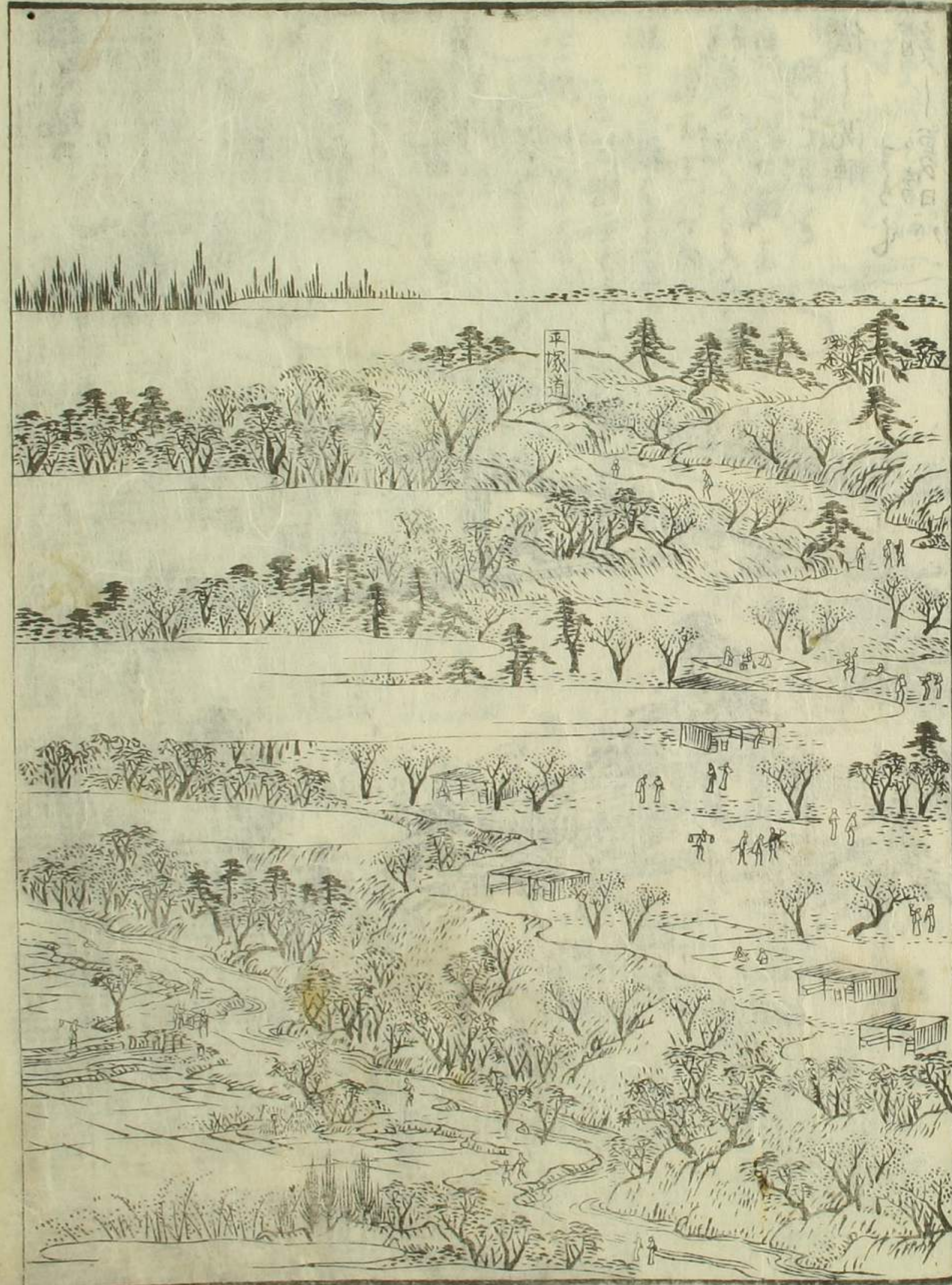
蘭亭高推簪
 飛鳥山前漲碧溪
 春來芳樹自成蹊
 年年載酒看花處
 不似桃源使客還

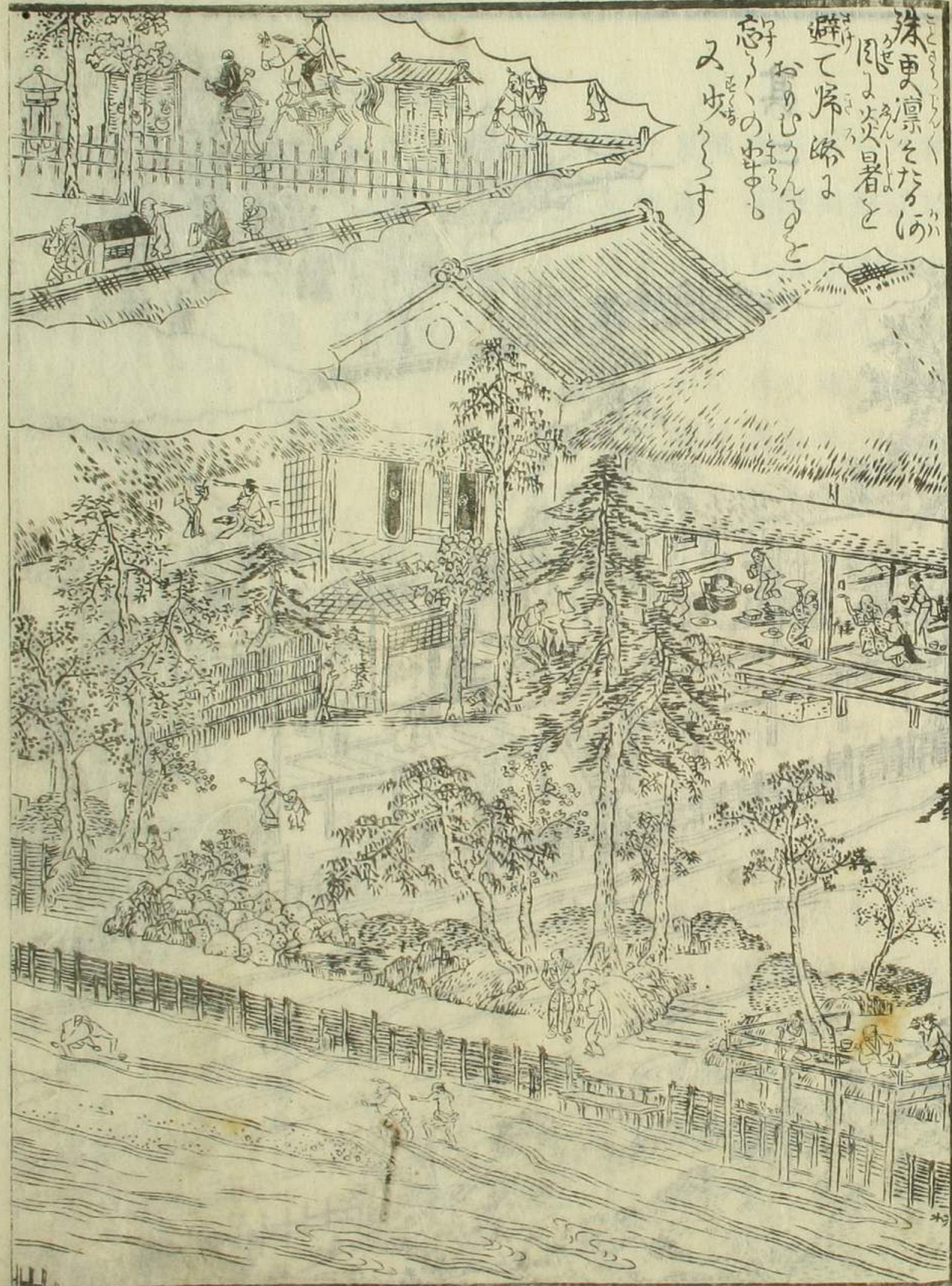
花と
 いそ
 ま川
 志まむ
 震
 の
 風雲



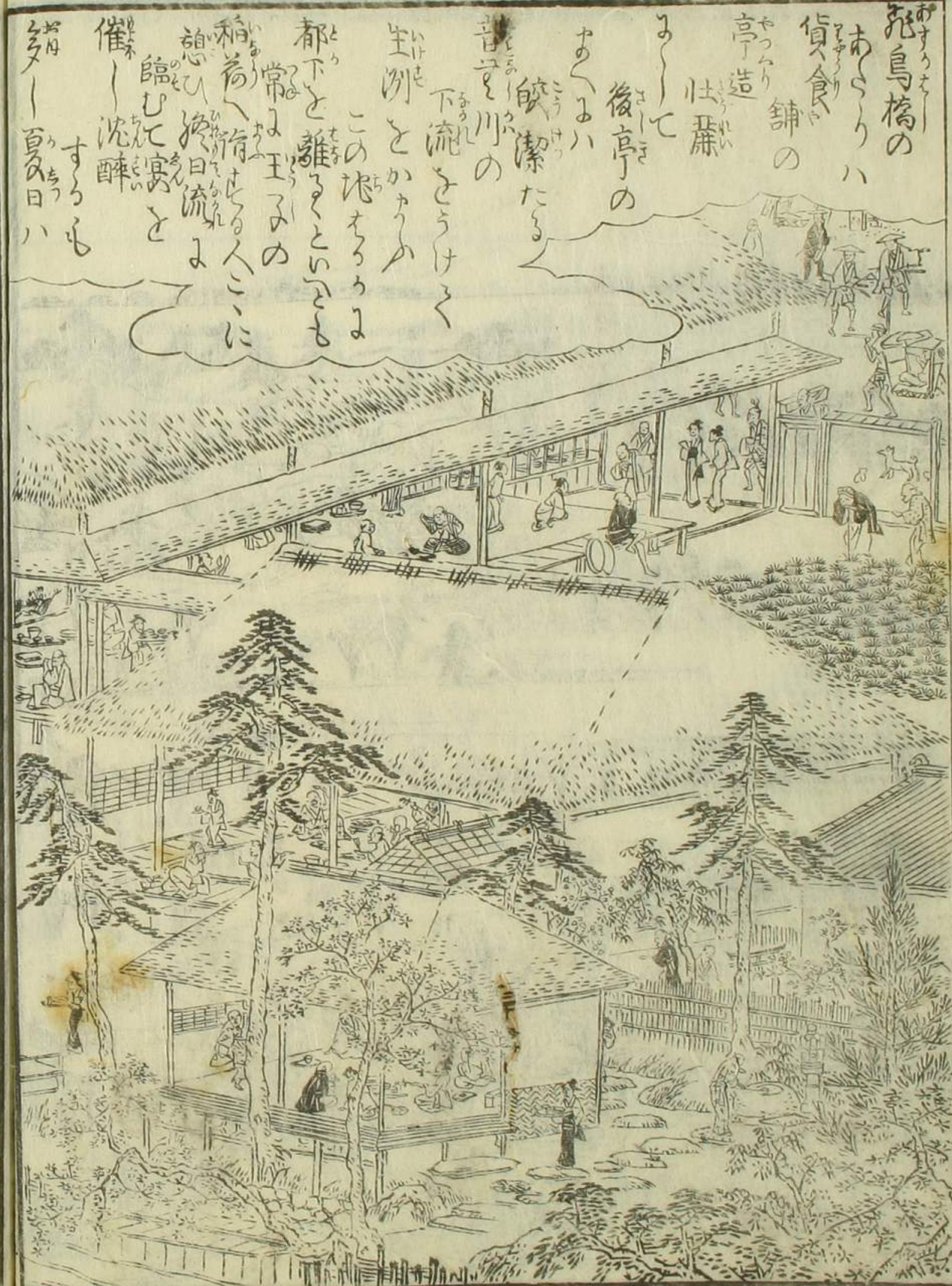
飛鳥山
 全圖
 飛鳥橋



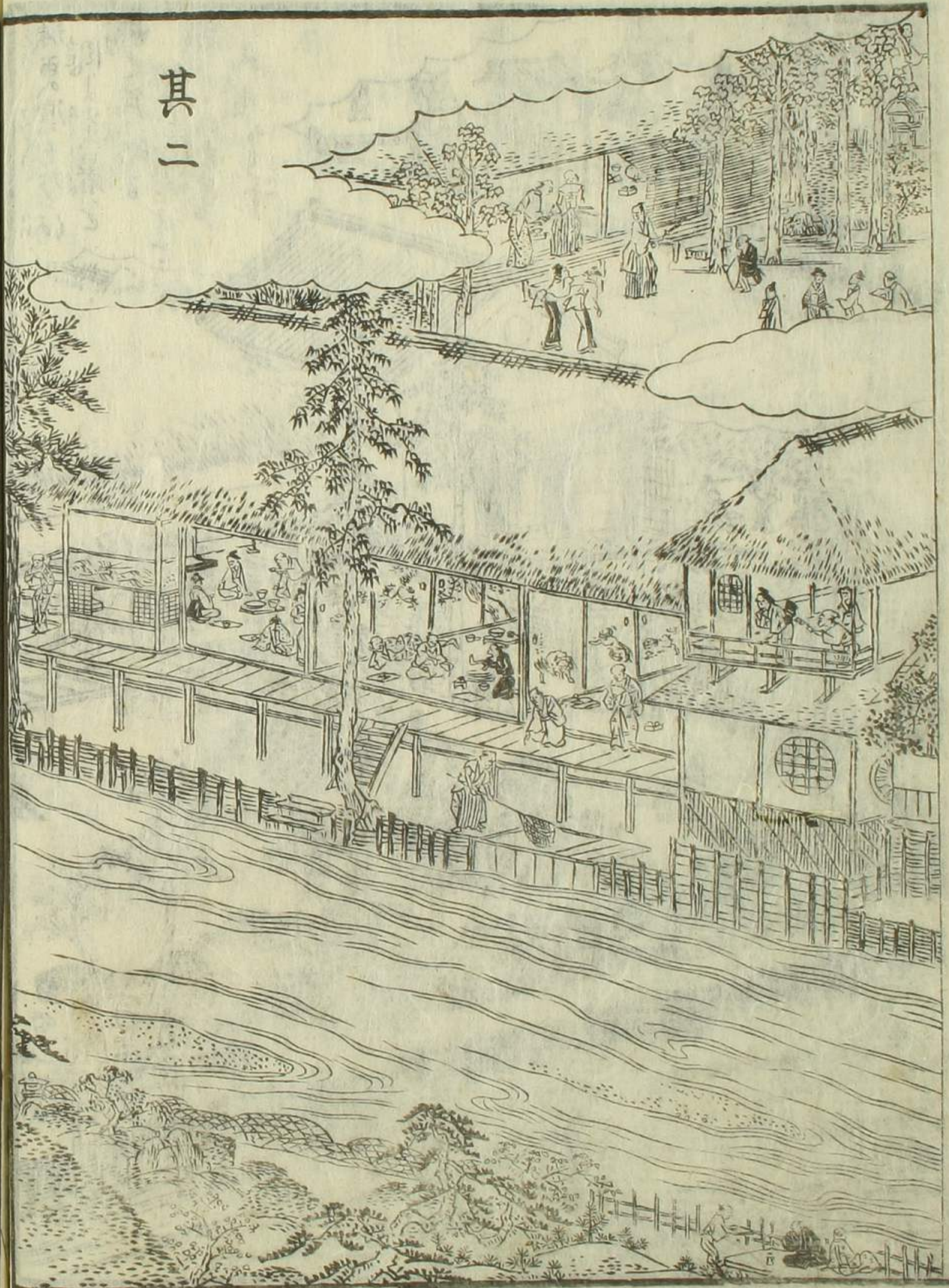




珠更涼をたがへ
 避暑の交暑を
 避て片路よ
 おのむらぬを
 忘のゆも
 又ゆす



飛鳥橋の
 ありりハ
 貨食の
 舗の
 亭造
 は藤
 後亭の
 みのハ
 皎潔たる
 龍川の
 下流さうけく
 生洲とかうめ
 この地ちろりよ
 都下と難るといとも
 常は玉子の
 稍前、有はる人こに
 憩ひ終日流よ
 臨じて裏と
 催し沈酔
 すらも
 夏日ハ



其二

神	以	奉	士	北	祠
其	誠	祠	封	於	於
不	治	乃	飛	本	本
飲	人	踏	鳥	今	祠
明	以	舞	之	茲	飛
惠	明	捧	山	丁	鳥
惟	摺	手	獨	己	之
馨	則	櫓	給	春	山
初	正	晉	祠	三	右
飛	施	敬	無	月	名
也	鳥	則	所	己	無
有	之	行	之	與	祠
司	山	以	日	永	我
行	蓬	謾	於	屬	由
千	邑	樂	穆	奉	后
株	史	蔬	郊	我	祠
內	容	壤	為	者	者
成	裕	維	神	后	衛
游	谷	兔	之	事	等
道	徑	鄉	神	神	恭
觀	道	鄉	神	神	規
春	木	觀	神	神	規
木	觀	神	神	神	規

自良至坤七十三步
自巽至乾二百二步
東都圖書府主事鳴鳳卿代撰拜書
加藤忠郁刻

短冊公舊跡

今より半ありのむう
此山の麓に住みあり名を勝行といふ何れ
冊の遺と云毎書の花の感すいかあつてふおて短冊と書く又人々の詠の事とて是
とをいふを己り録といふ元文の頃
白浪等と下り賜ひ給とと常は私録の事とて是
短冊とて誦して志と養ふされと後其誦をかうて終ふとて去るん

王子権現社

山うそあ



王子権現社

飛鳥山の北の方音河を隔てあり

奉殿 祭神 伊弉册尊 三神鎮座

社記曰若一王子社ハ紀伊國熊野権現と勧請以後醍醐天皇の御宇

元亨年中豊島何々の主とや新ニ祠宇を建て崇ける同霜

ぬり案月深して朝の霧ハ香と林々とあやしの夜の月ハ燈と

挑み似そり靈神ハ人の敬よよりて其威をま一境致ハ靈神の徳

ふよりて其名を弘くはらく此神の奉と尋れハ伊弉諾伊弉册

の尊と申ハ二柱のみこと國土とらみ萬の物とらり其廣大の功

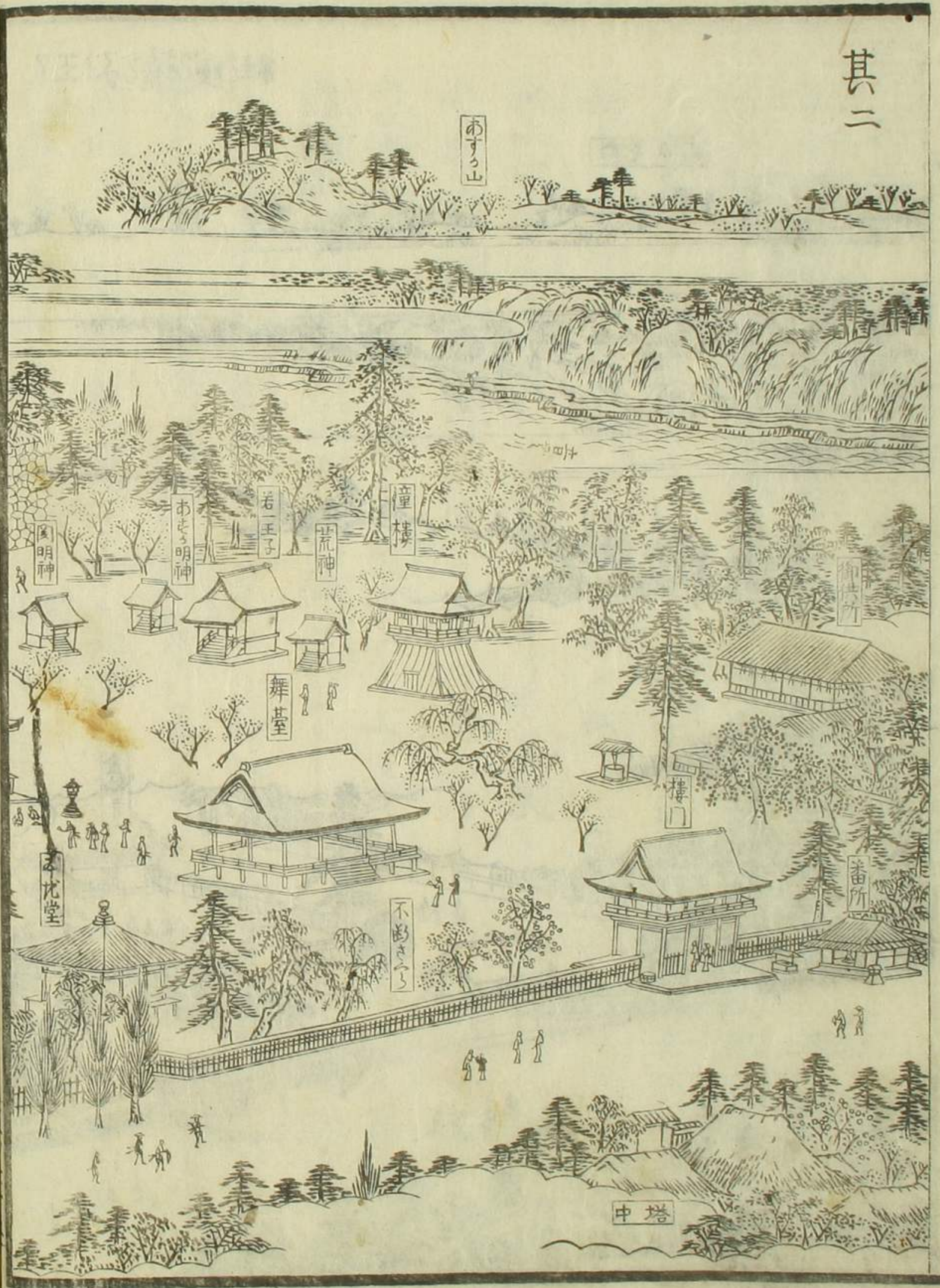
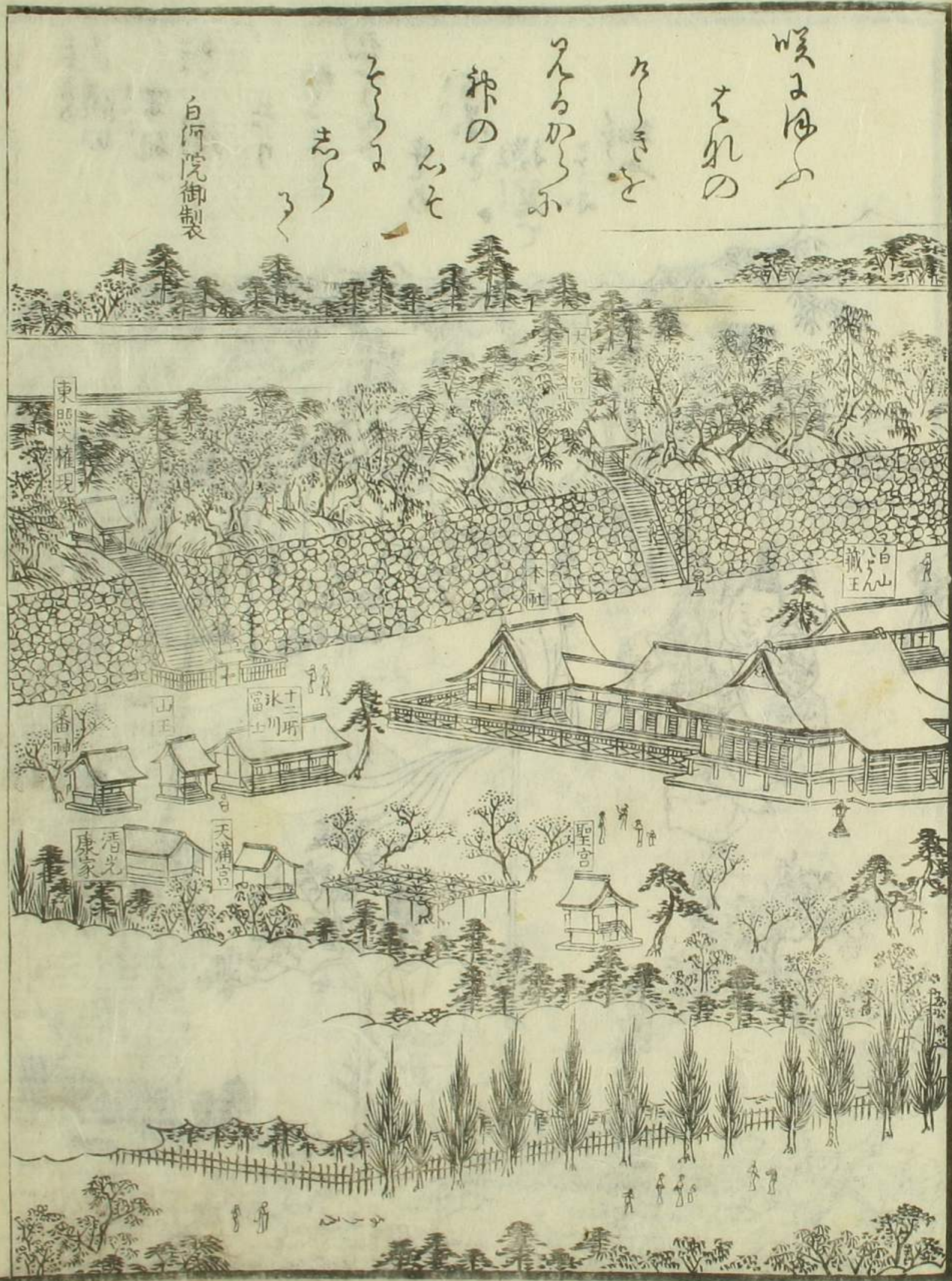
徳既ふ成て後伊弉册尊神退ま一々ハ紀列熊野の有馬村

よおはちまらふ熊野大神是あり此神と祭るふ春ハ花をとて

多り鼓うち笛吹旗立て調絃て祭る白河院の御製ふ咲白

花のけしきと見ふくくく神の心をふまらるとよみぬるハ

花さらの事なるハ此神の御子と熊野早玉男とより其第二





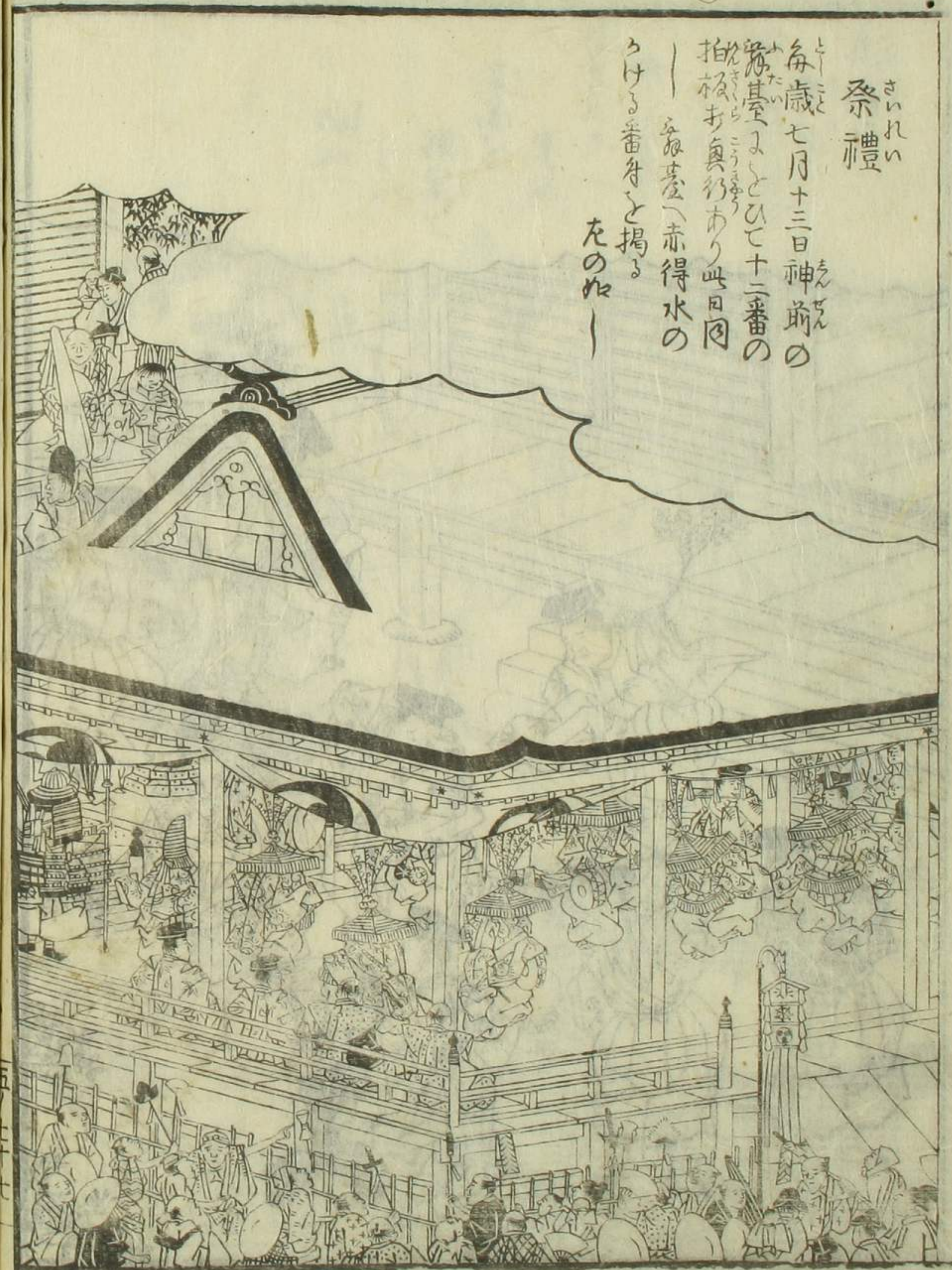
花慎の
 祭記ハ
 今
 たり
 存せんに
 古
 加
 摸
 写
 して

第一番 中門口
 第二番 道行腰作
 第三番 行違腰作
 第四番 脊摺腰作
 第五番 中居腰作
 第六番 三拍子腰作
 第七番 點禮腰作
 第八番 捻三度
 第九番 中立腰作
 第十番 搗笮腰作
 第十一番 笮流
 第十二番 子魔歸



祭禮

毎歲七月十三日神前
 拍板亦真行あり此日同
 赤得水の
 掲げ番舟と掲
 左の如



元山乎其測乎草神鳳福分語一至冥祀爲色冊尊唯帝本祀熊熊
文碑不必之聖木而鄉八稱神王二冥二幡色尊所耶六宮伊伊
丁遂遷在謂者區秀聞咫二之子神中神鼓有既過智十六特之
已閱嗟結神之萌不之鳥神道共始有之樂華因而不五冊神
之舊乎繩其出而可紀自之形配生物地舞窟生化詳年有尊蓋
冬史神先不寧達體人外應於熊日象其踊即火乃起始里及三
東謹之而然知厥矣熊諸是人桎神帝跡今藝之神國者本曰玉
都叙國神邪不土厥桎祠已物祠是之業尚神所土灼草神景智
中三其德蓋在壤石之則其息新天號在也地以而木史行距專
秘神疇不可神乎壚而而海世略速耶大常官古之遺俗祀之紀
書事不欽擗之豈而而肥麗而所也玉智亦又尊云遺也祀之紀
監此哉如跡啻肥麗而所也玉智亦又尊云遺也祀之紀
源鳳斯在興神厥昇副若事類曰神又也祀之紀
鳳卿夫彼雲之水澄天有飛一依弱之曰有之紀
鄉日神盤雨止澄天有飛一依弱之曰有之紀
子代統古降焉徹一其鳥王其官代閱產以之紀
陽撰千之福固而之傳三子例或七關田花阿爲伊芽新崇
謹飛世紀釐其其所存者凡號焉之祠結哩火神冊官
識鳥確邪不所厥造焉徐特我弱傳始又繩馬神冊官

熊野三神傳記壹卷

金福寺の傳記
熊野三神傳記壹卷
金福寺の傳記
熊野三神傳記壹卷

征夷大將軍
也項年
武加豐島郡若一王子社者
所勸請熊野權現
神勢民之軍
餘造大臣
從一位
源大君治世
起故忽降
敬
丹青之愚拙
撰其詞於社
是能以書揮
行草之勢
盡
命者復也
使遺其功
已於成裝
爲三軸
以納社內
誠是奉
寶
寬永十
八年
七月
十日
十七日
於軸
民部
卿法
印道
春敬
書

當社緣起三卷

後章八民部
法印道春畫
狩野尚信筆者ハ

と泉津事解男と申は延喜の帝の御時諸國の神社と記され
一と紀伊國牟婁郡熊野早玉神社とあるは是なり此故伊特
冊尊早玉男事解男是と熊野三所權現といひをらへせり
ふわり
當社緣起三卷
の内で以上廿八頁ハ百六十文の地とあり
後章八民部法印道春畫ハ狩野尚信筆者ハ

大般若經卷第三百四十九 今一卷と傳ふものと余ハ室曆六年上の麻屋村正法寺

奉施入武別豊島郡能所権現御實前文保二年戊午初秋 觀音奉納せしといひ其巻末

古證文二通 小余氏政氏直神領 奇附の證文あり 千鳥屋風一雙 狩野古法眼信の筆あり

蘆屋釜一口 昔小余氏直の奉納あり

祭禮 例年七月十三日ふして十貳番の拍板あり 此日玉子の童み

飛鳥祠 洞川にひきかへし神ハ奉代主の命あり 元亨年中豊島左邊門ありりの

康家清光社 烟平社の左あり 是豊島を所 康家同権頭清光父の

樓門額 本社の花あり 除陀薬師千手 若一王子宮 本社の右ふあり 新宮天照

世玉子宮

仁和寺覺深法親王真蹟

當社ハすして紀列熊野山の地勢と寫し前小音河川の流とらけて

風色真砂あり花の時ハ花とめて祀といふ神まふ因よ社頭より
多く楡樹を植て春の頃ハ境内殊々觀賞ありあり亦冬月雪の眺
金も化小勝あり

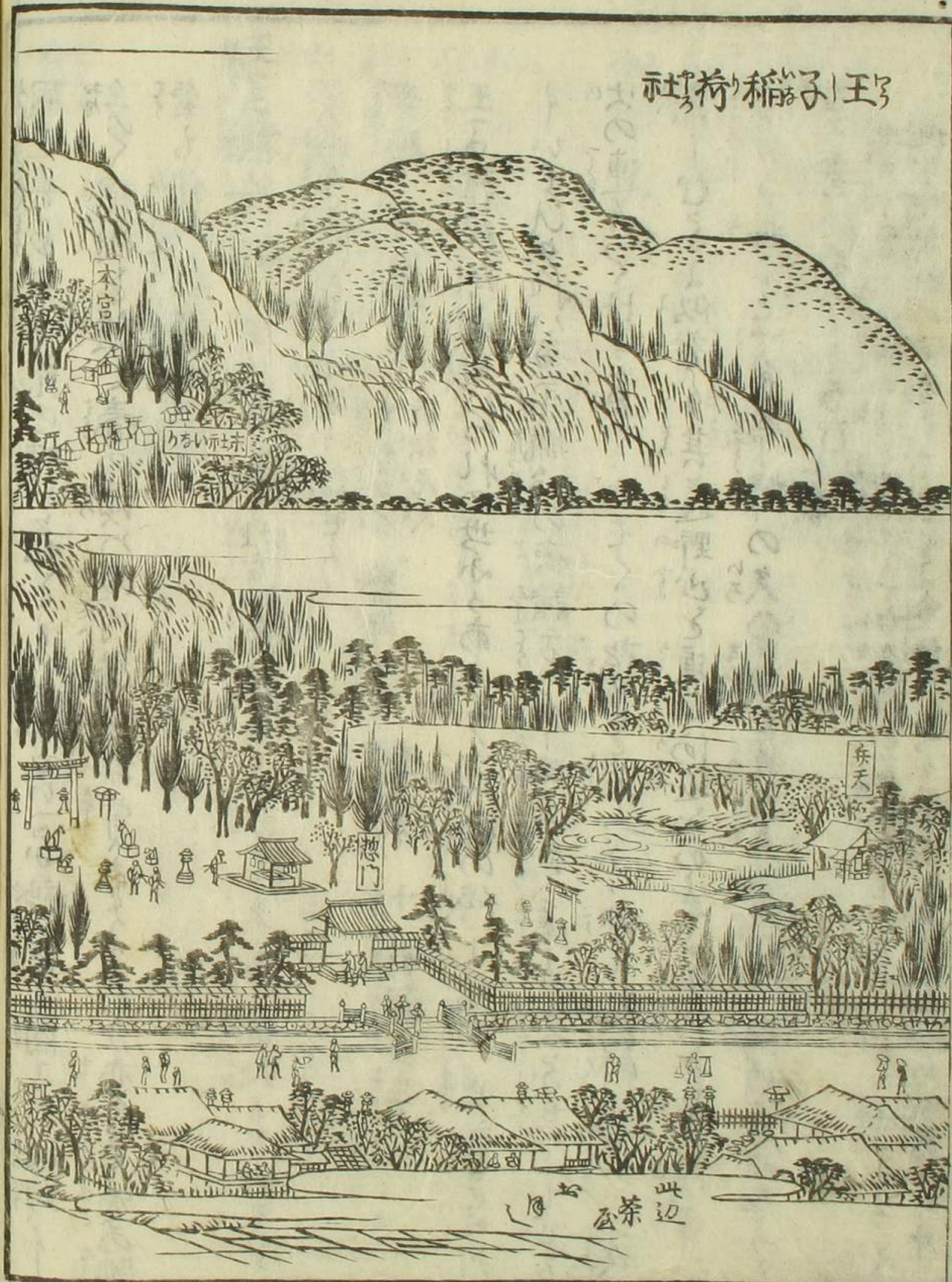
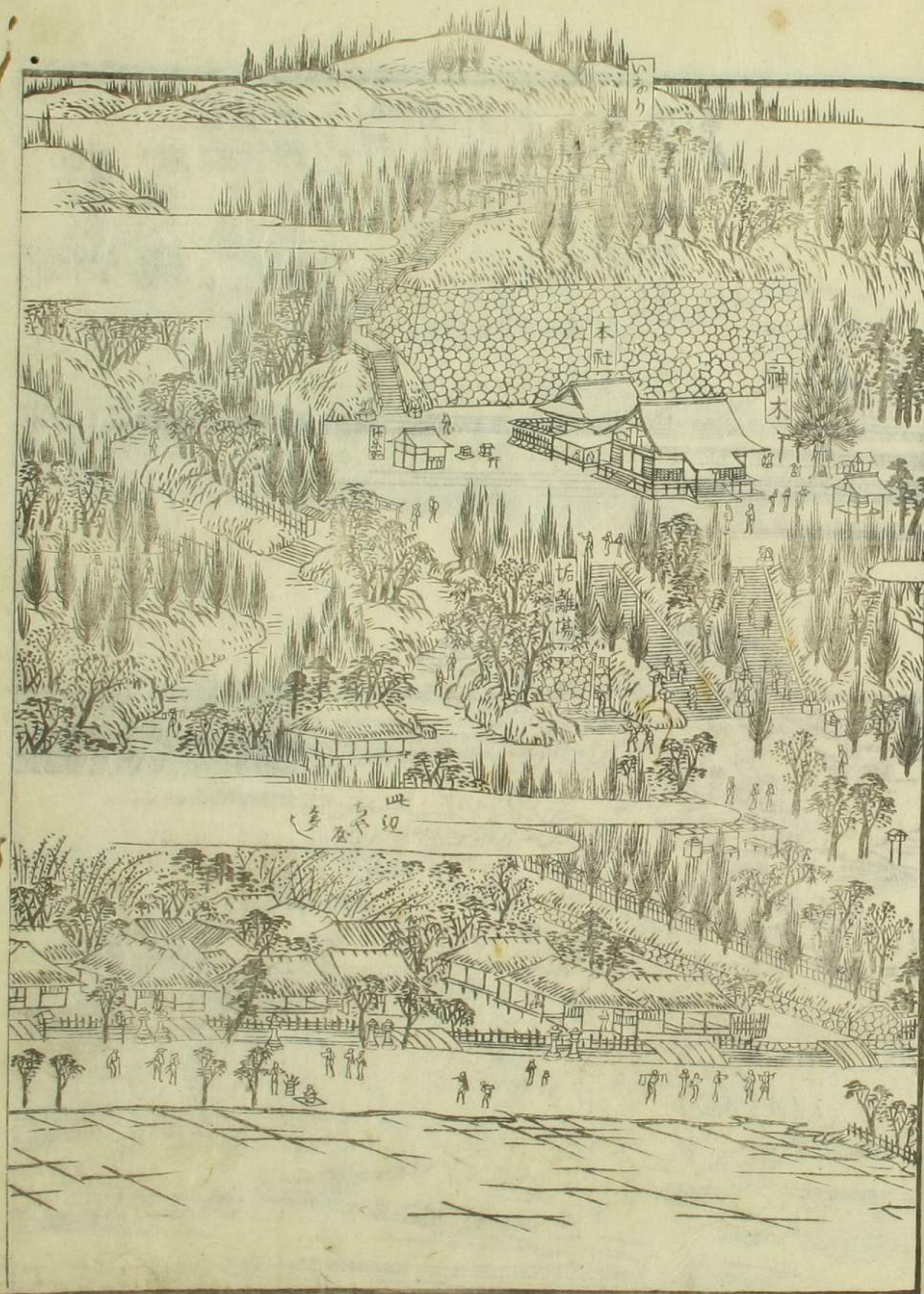
王子稻荷社 同北のふあり往古ハ岸稻荷と号し一も今當社より出すと

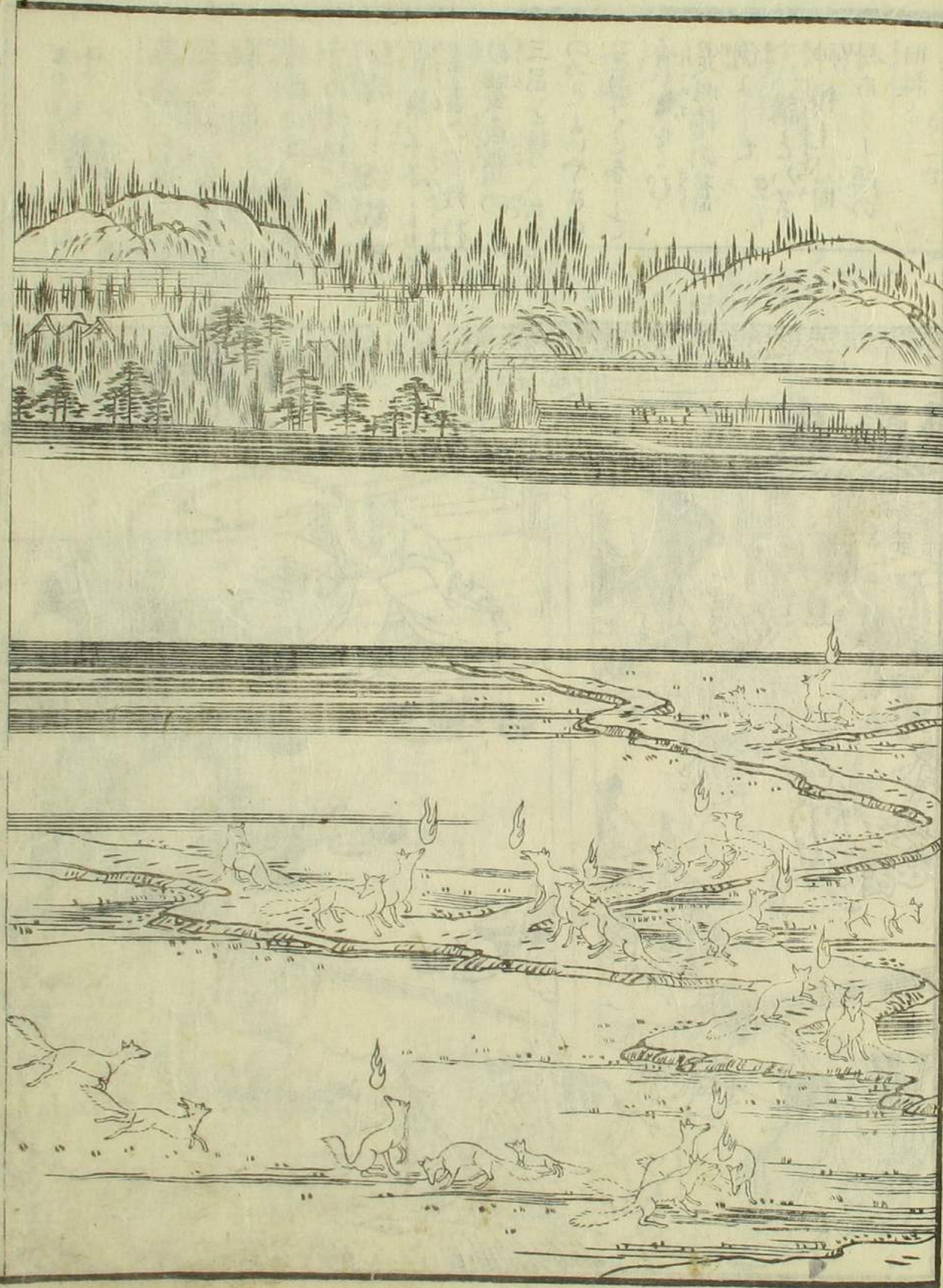
この牛馬宝印小志り記せり

奉殿 倉稻魂命 聖觀世音 藥師如来 奉宮 十一面觀世音

王子権現縁起曰われの世ふありん此社の傍に稻荷明神と云
いそひるハ毎年臘晦の夜諸方の命婦此社へ集り来ふ其ともせら
火の連りつけら奉そくそくの松明と並ふる如く數解の螢と放
花しむふも似そり其道野山を通ひ河辺をかよる不同と見て明年の
豊凶を知るよ命婦の冬の白と丸の尾ありハ奇瑞のりのありと
右に書小ありとあび下畧

因云今の世三狹神の名に附令して伊奈利と白狹とすらゆのハ大あり誤りあり又
狹と伊奈利の使者と一又ては命婦ととらハ或書に云後小松帝の明徳年中

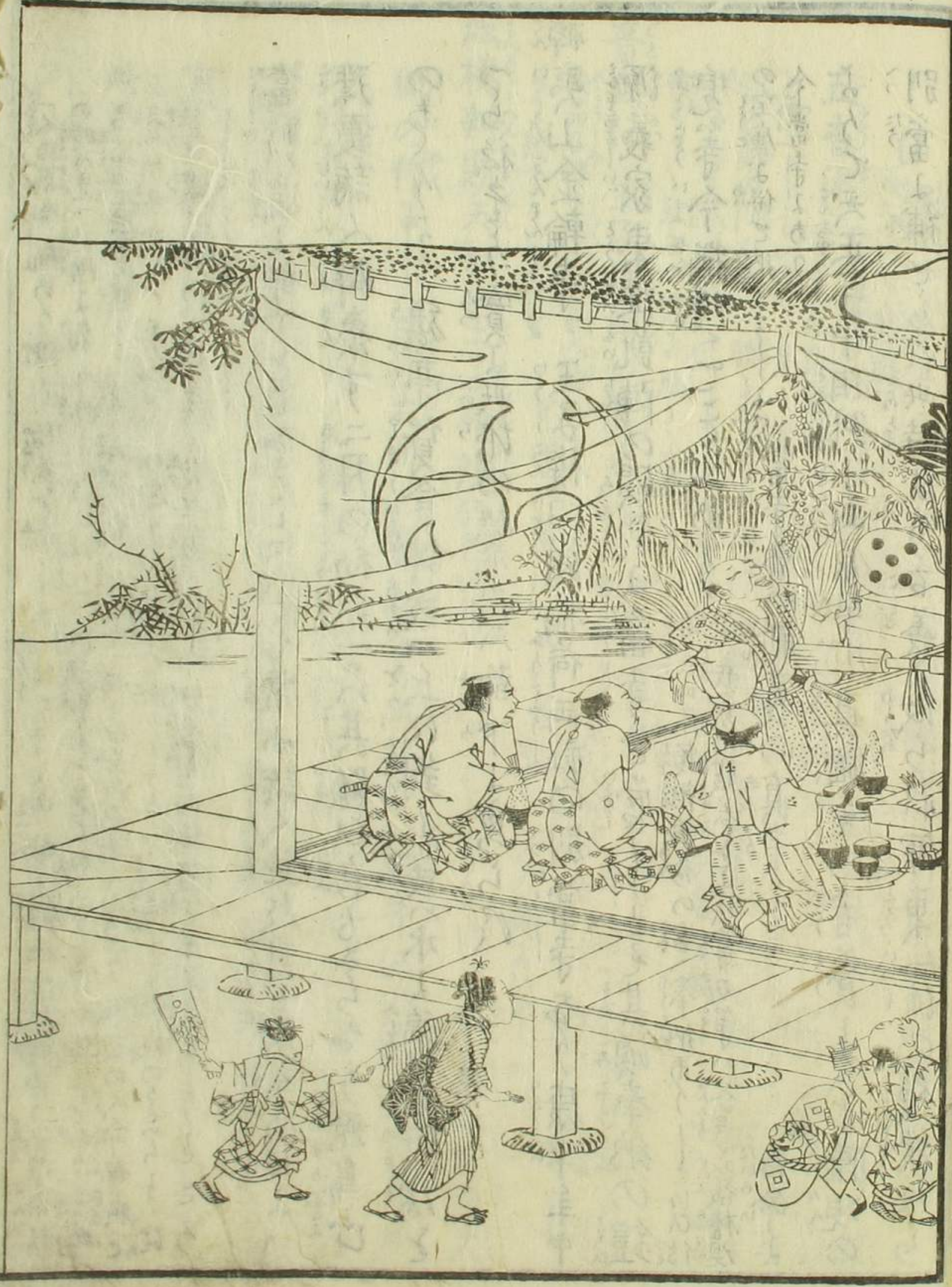




幸うそくたけ
 衣裳櫛
 毎歳十二月晦日の
 夜諸方の狐殿へ
 火を焚き集り来る日
 例よりして今も
 然り其燈せら火
 影小依て土民明
 年の豊凶とト
 とを此事正月よ
 ありま〜〜〜
 何ぞて時刻定る
 事也

十八講

毎歳正月十七日
王子村農家より
是と行ふ當日
権限の別當金輪
寺の住持と
誂請し酒飯の
資糧半小して
當番の百姓村
飯糰魚盤の
三品と推考して
のめとよいやさの
を聲とあして
食とをくむ
是此地の舊
例として
十八講といふ
神領十八箇
村あり一頃の
旧村と



一人の老命婦あり深く稲藁と信し毎日常てける命婦を飼ける時ハ先社檀越より待しなむ稲の一本を飼て命婦のやうに命婦も年老を退りて後ハ稻と着ふ者も稲よ伊奈利に送り其うり命婦と各つけ呼知し一乗物ありと云ふるは年経てて命婦を飼て命婦と社と建て祀りしと云ふ稲と伊奈利の使者とせしよりと云ふ

當社遷都下と云ふこといとも常諸人絶月毎の午の日ハ殊更諸人群聚す二月の初午ハ其賑ひ言もさらあり飛鳥山のありより旗亭貸食舗或ハ丘に對し或ハ水に臨む軒端をつらねをり實此地の繁華ハ都下よりつらね

禪夷山金輪寺 王子権現同稱荷西社の別當寺あり康平年中源義家東征凱陣の頃新當寺と管しとそ其頃奉納の鎧兜等今猶傳へてこゝあり 治承四年頼朝稲藁の宮奉納ありしといひ傳の宝庫併せ納りしと云ふて義家の腹巻とよひ薙刀等ハ元亨以後權現今當寺あり

よりて天正年中相列小田原早川真福寺の宥養上人と権現の別當ニ補せられ此時より古義は改られ寧東一派の棟梁たら

五香湯 王子権現湯起日あり時詔宣して五香の藥と授られしより其藥と服

音無河 王子権現の麓と流る 及又紀伊國音無河と云ふ事石神井川といふ

松橋辨財天社 王子権現の西の方三四丁をりあり奉尊ハ弘法大師の作りし昂太師の勸請なり此地ハ石神井川の流臨し自然

の山水あり兩岸高く標概の二樹枝と交し春秋ともいふありあるの一勝地なり源平盛衰記ハ治承四年十月頼朝卿岡河と云ふ

渡り武藏國豊島の上麓野河松橋といふ処ニ陣と云ふとある此地の事あり 頼朝奉終の事ハ一振

龍河山金剛寺 松橋院と号し 弘法大師の完基より奉る

今當寺あり

今當寺あり

今當寺あり

今當寺あり

今當寺あり

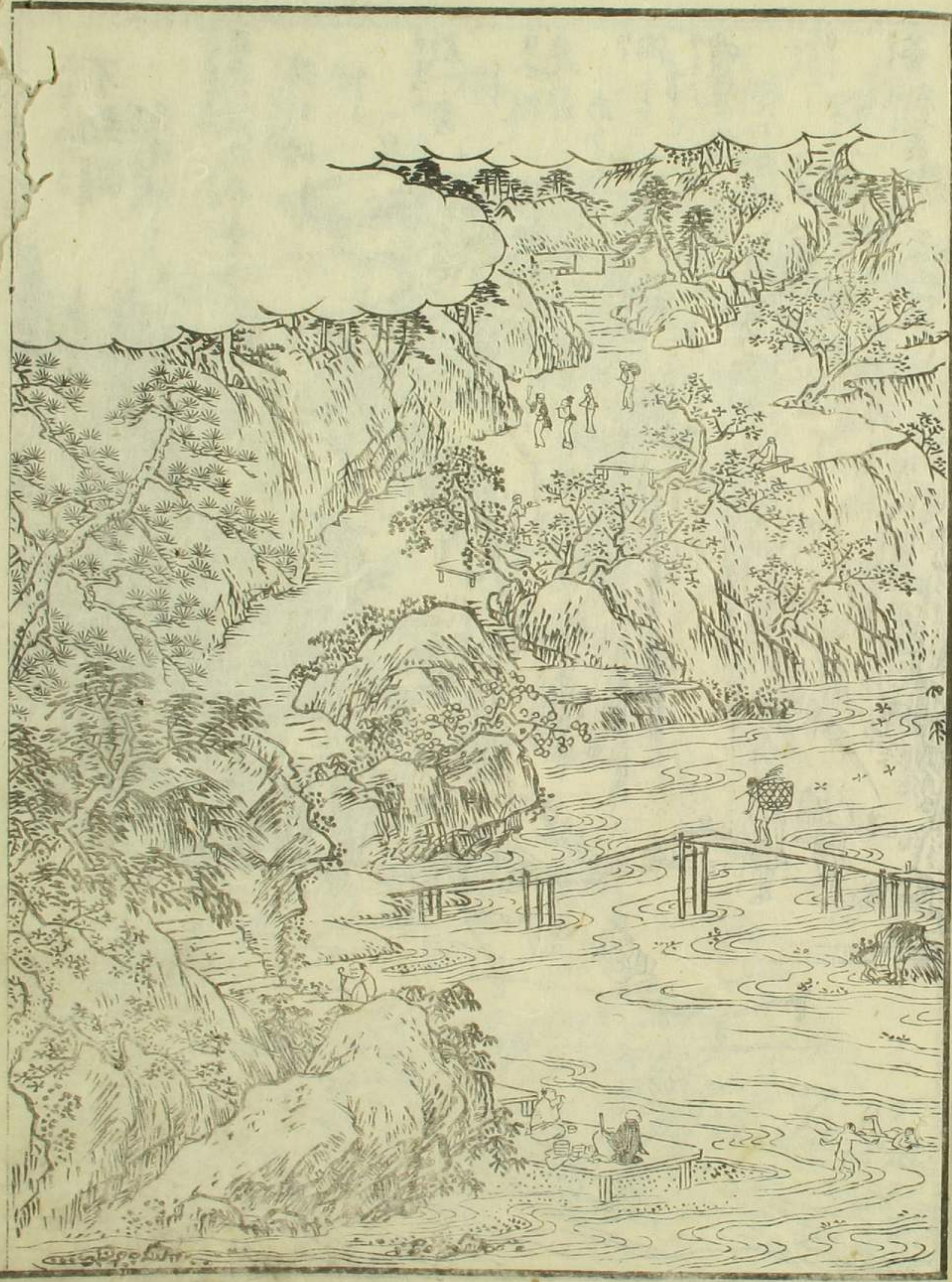
今當寺あり

今當寺あり

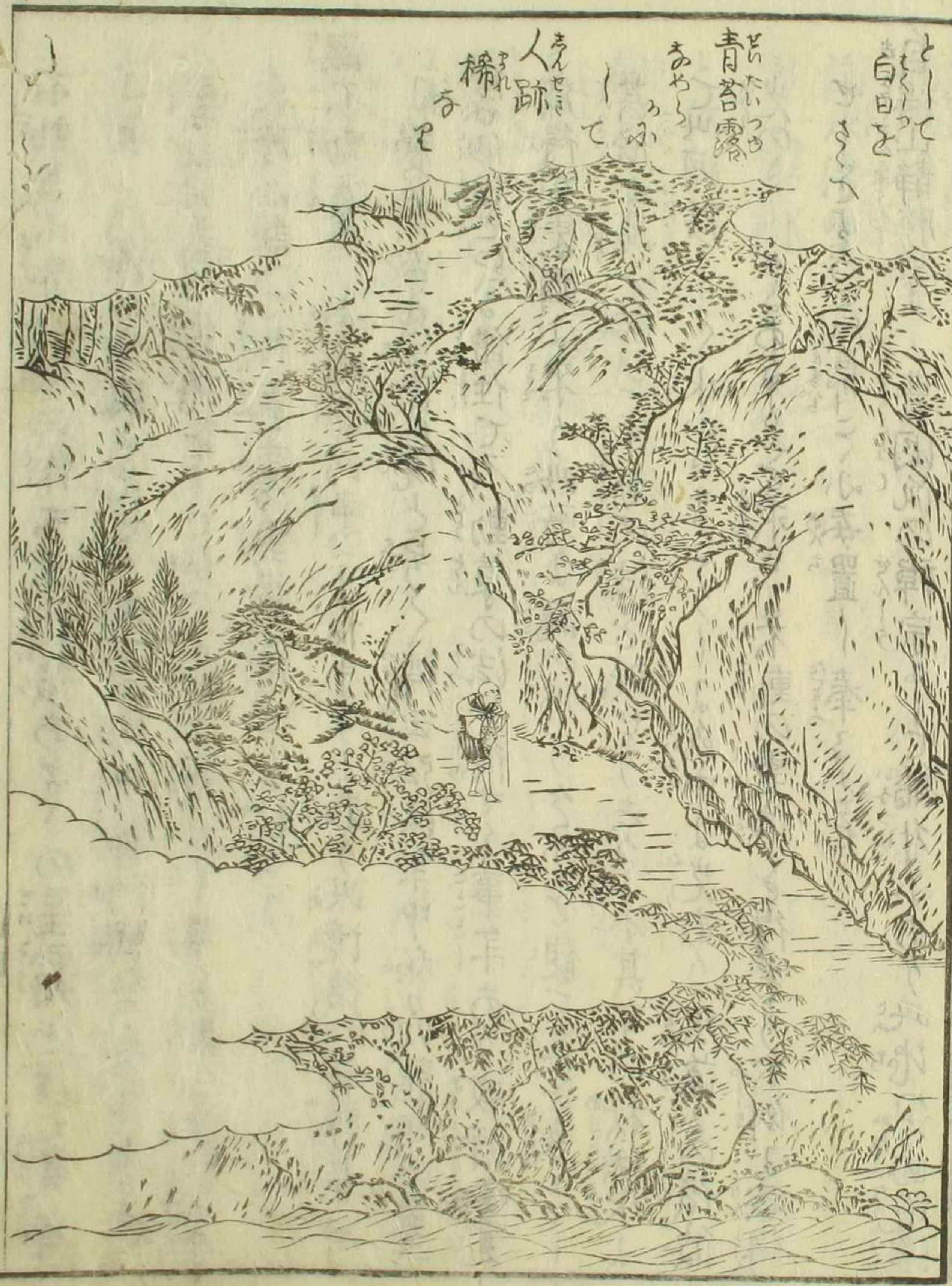
今當寺あり

今當寺あり

今當寺あり



まつぎ べんさいてんのいそや
松橋辨財天穴
石神井川



といて
白目と
あわら
青苔露
人跡
稀



不動龍
泉流龍とも云
奉
正受院の本堂の
後坂路
松十太
飛泉
洞
峭壁
此境
常
蒼樹

不動尊ハ昇大師の作あり其後ありの星雲相と強て荒廢
ふとひ作の宗風ニ化せり天文の頃中興阿闍梨香印ありの
曇祖寔基の靈地として他の宗風ニ轉せし事と歎こ其頃小糸
氏康小訟て再真言の靈區ニ復せしむとす

龍不動尊 金剛寺の東ニ丁何まりあり此境後ハ石神井川
ニ臨り寺成正受院と号く傳云弘治年中和加龍門の眞
學仙坊といふ僧住て不動尊の法と修する事年あり或時靈
成得て東國ニ來り此所ニ龍の有り多ふと觀て是と幸と
其傍小庵と結ひて不動の法と修せり去るる小其年の秋洪水ニ
て此河野ニく水のさますり一ニ中ニ光あり水落るの後彼
光のさゝたるありと求るる不動の靈像と得るる不削ニ感得
せしとよろこひ昇こみ奉置し奉るとそ

自得山靜勝寺 曹洞派の禪宗より稲付小あり此地ハ古因道灌

同譚の居跡あり道灌亡るの後ハ瓶兔の場一とありけり中頃
泮水浮雲の僧ありて此小草庵と結ひ道灌寺と号す是當
寺の草創あり其後左内家より當寺と建立ありて靜勝寺
と改む

觀音堂 奉尊十面觀音ハ兼養堂の作 景堂 道灌入道の

五葉松 道灌手植の松ニ有 龜 寺の後の方ニありむり此派より

抑左内満門ニ奉資長ハ 或ハ持資と号け初ハ源六郎此ニ金吾と稱し蘿髮

源三位頼政十世の孫備中守資清入道道眞の子あり扇谷上杉

彼理本末定政ノ属ニ江戸株ニ住す公と共に武毅勇烈寧東

ニ覆ふ故より唱んて真灌と稱す城を築くは巧あり東邊

の株多ハ道灌の指圖より築所あり長祿元年武加江戸株を

草創し株中ニ燕處の室といとあり靜勝と名ほく西を合雲

といひ東を泊松と稱し和漢の書を集る事幾千卷といふと

あつた常よこふ在て詩歌をたしむ仍珠北の管神を勸請し祠
城建今津西平川此時雨上杉山内上杉権をたらしむ
平小こを後小間計を以て定正は道灌とすたふしびふとの川て
定正人として灌と浴室小刺殺さしむ時小文明十八年丙午七月廿
有年五十五歳相易糖屋四目死よのそびて云く余と害するは定正亡灰
の北なりとをたして定正威衰再び振ひぬ灌をより先實正年中
上澹す 勅してびさし其の勝景を伺しむ和哥を以て答奉る
露並ぬ方もありそり夕立の空よりひろさびさしぬ其の原
又平生の眺を幾とそしむ
家庵ハ松原つさ海をく富士の高根と軒端よとそ
此時處感のあやうり 御製をたまふ
むさし高萱のこと思ひしよめる言葉の花や咲らび
又ある時 勅して角田河の都鳥とこいぬたまふよ

年少れと表より志らぬ都鳥角田河系よ宿ハあれとも
其餘の和哥ハ表の集よゆるとしてこよ畧る

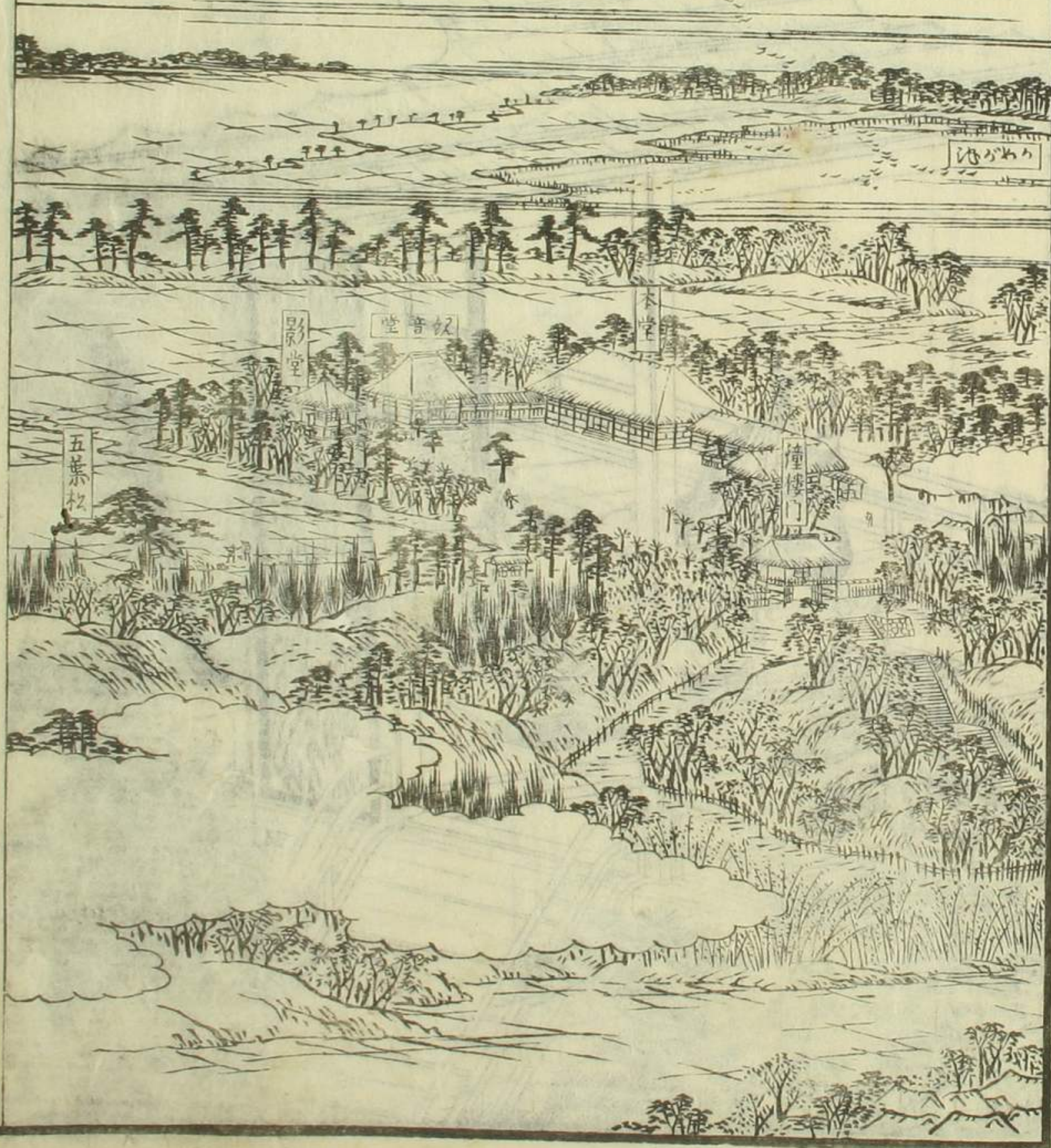
赤羽山八幡宮社 ありを存せしむあり社傳云當社鎮座の年歴ハ
久きを以て詳をくんとそ中百大の荒廢よとよひぬ文明の頃
左田道灌再興ありしより祭禮怠る事をし神室よ獅子の頭
一個古き面二枚あり

川口渡 往古のころはち 義經記ハ九郎侍曹子眞刃より鎌倉よ至りぬと
いふ條下は室の八島とを以て武藏國足立郡こらむらちよ著たりぬ
侍曹子の侍執ハ十五騎よそありふさる板橋よをせ附て兵衛佐殿
へと向たりハ其とひこを立せぬ候と申武藏の國府の六所町よ
ついで佐殿へと仰けれぬとひ通らせたり候相摸の平塚よと
こそ申々ると云

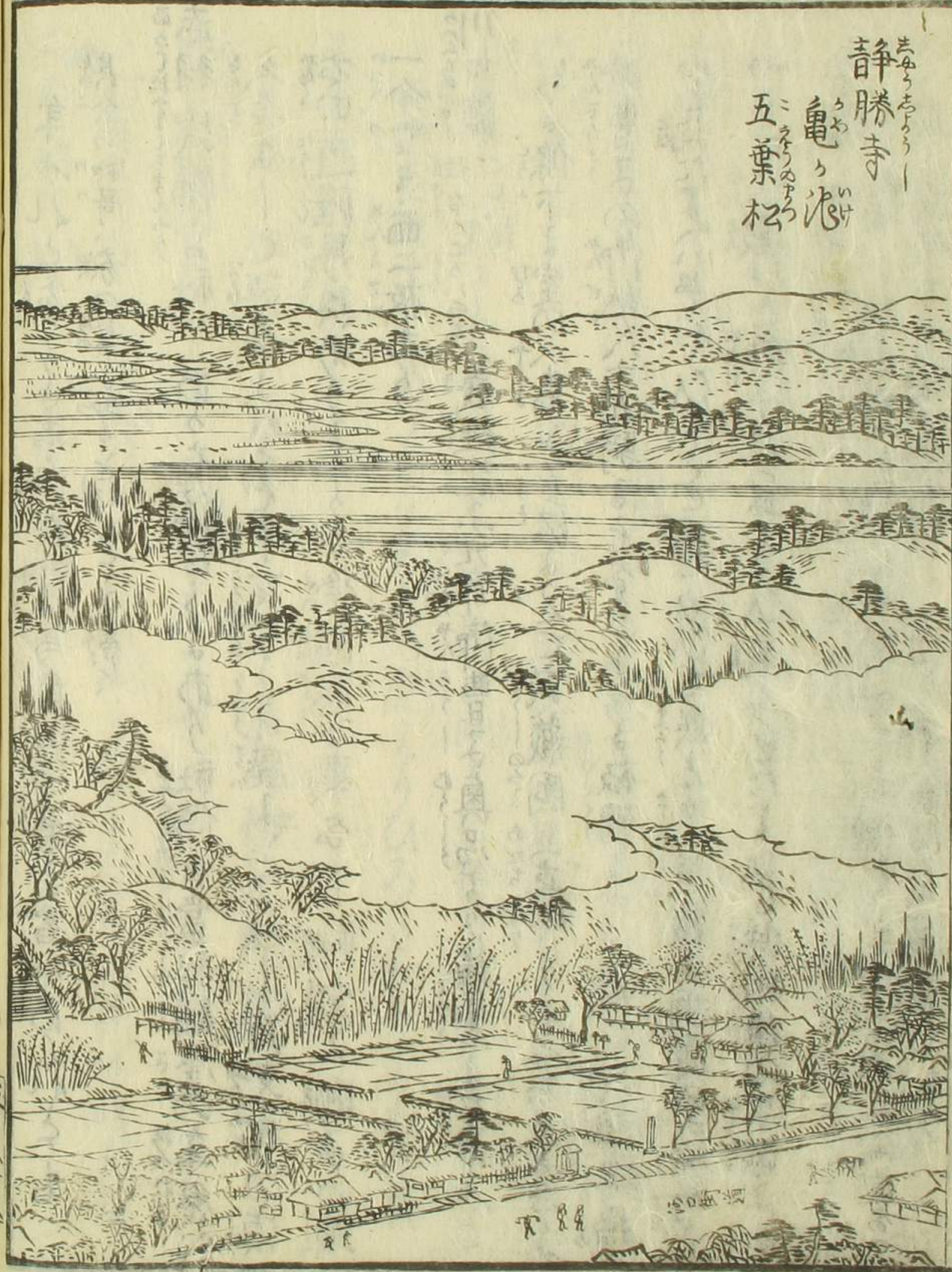
是より板橋よりまて程南の方の元は府中道と記せしる石標あり是往古の眞の海道あり

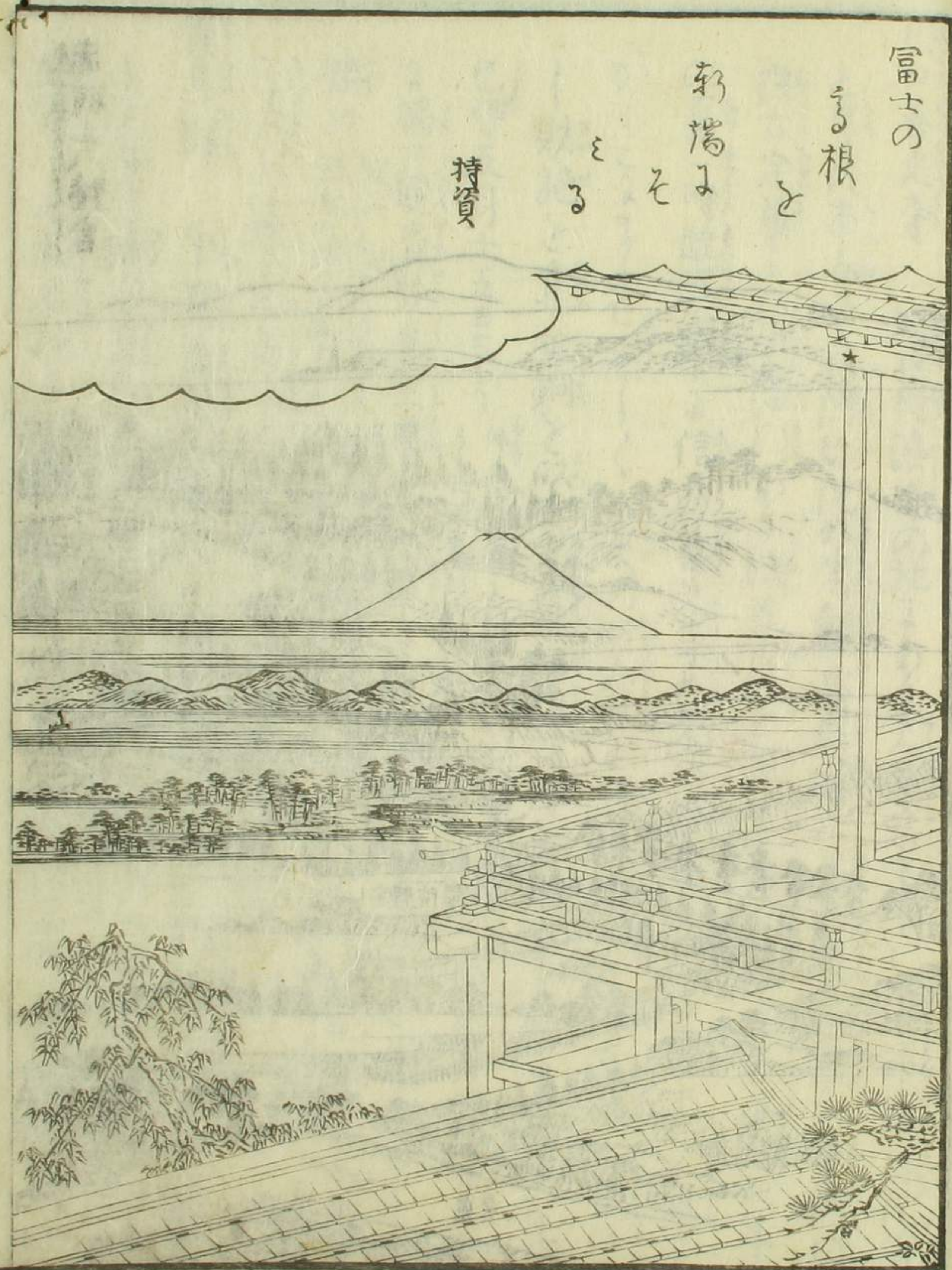
懸雲燈
圓通閣
灌公祠
梵鯨樓
古城坳
樓鶴塚
靈龜池
蟠松岡

右當寺の八勝
あり筑波石正
倚の詩あり是
を畧ん

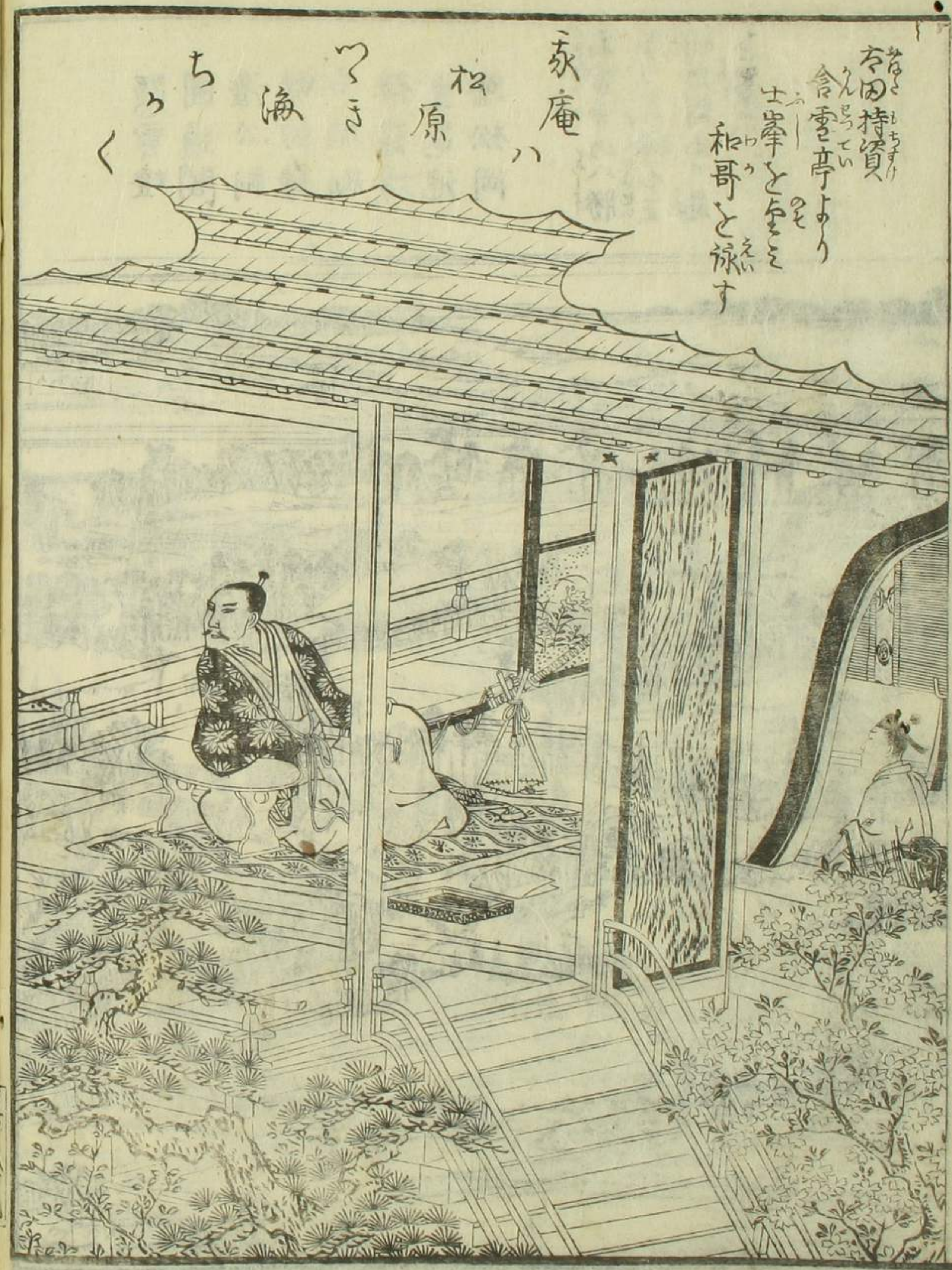


静勝寺
龜ヶ池
五葉松



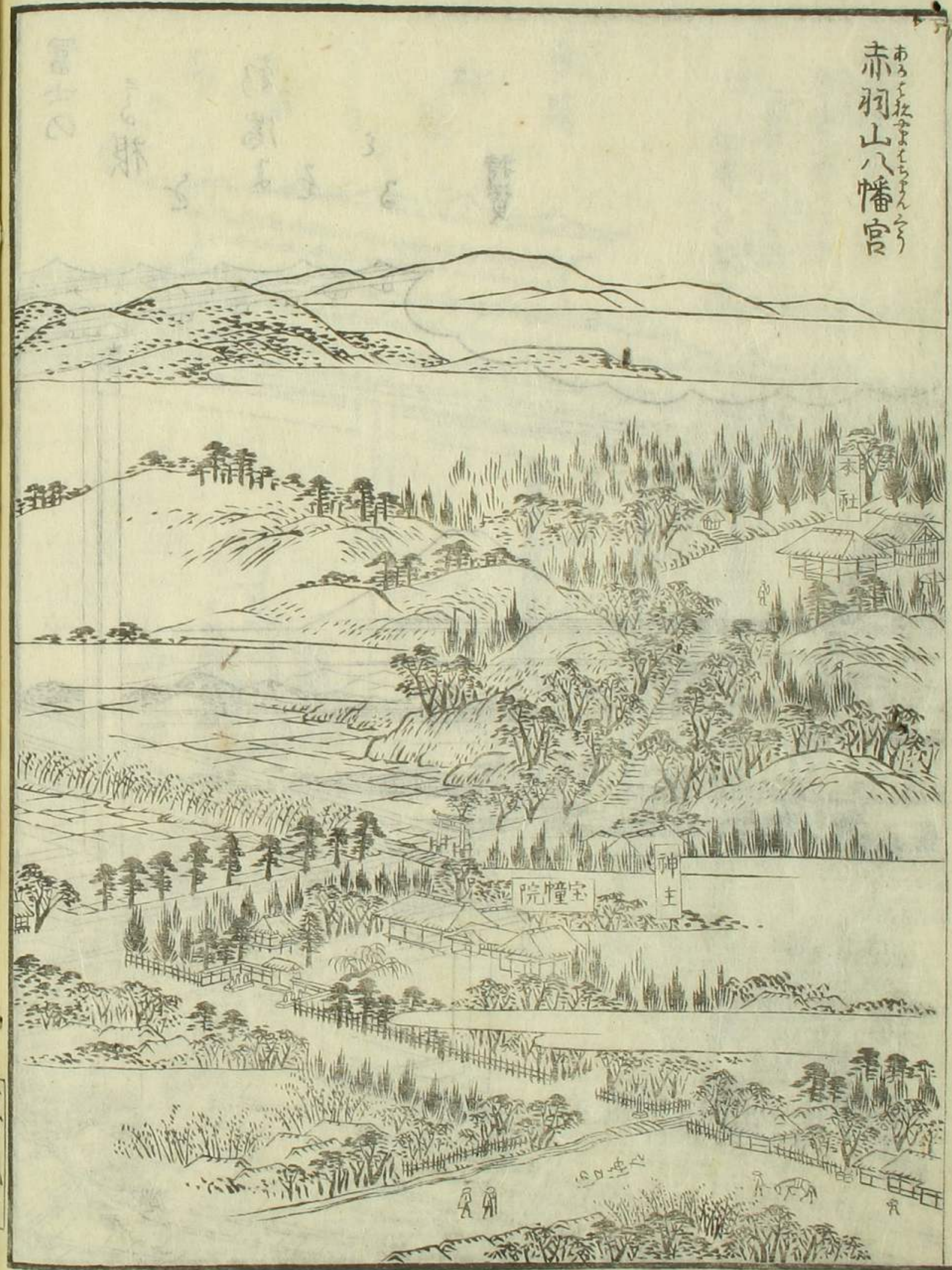


富士の
 根
 と
 新瑞よ
 と
 持資



永庵
 松原
 つま
 ち海
 ち
 含香亭より
 和田持資
 士峯と全と
 和哥と祿す

赤羽山八幡宮



川に善光寺 川に村渡場の北よりあり天石宗よりて平等山阿弥陀院

と号け奉堂より阿弥陀如来観音執至一光三尊と安す寺傳曰

往右定尊といふゆ門あり法華經と誦す外依を建久五年

の夏一時睡眠の中は信の善光寺如来の靈告を得る事あつて速

かこよまて正しく如来の聖容を拜し示現に依て十方を勧

財施と集金銅と以て中尊阿弥陀佛と鑄奉る時は建久六年

己卯五月十五日あり 佛の清胸中より三寸五分の水晶の宝塔とこ

脇士観音執至の二尊と鑄奉る終に堂宇を建立して善光寺と

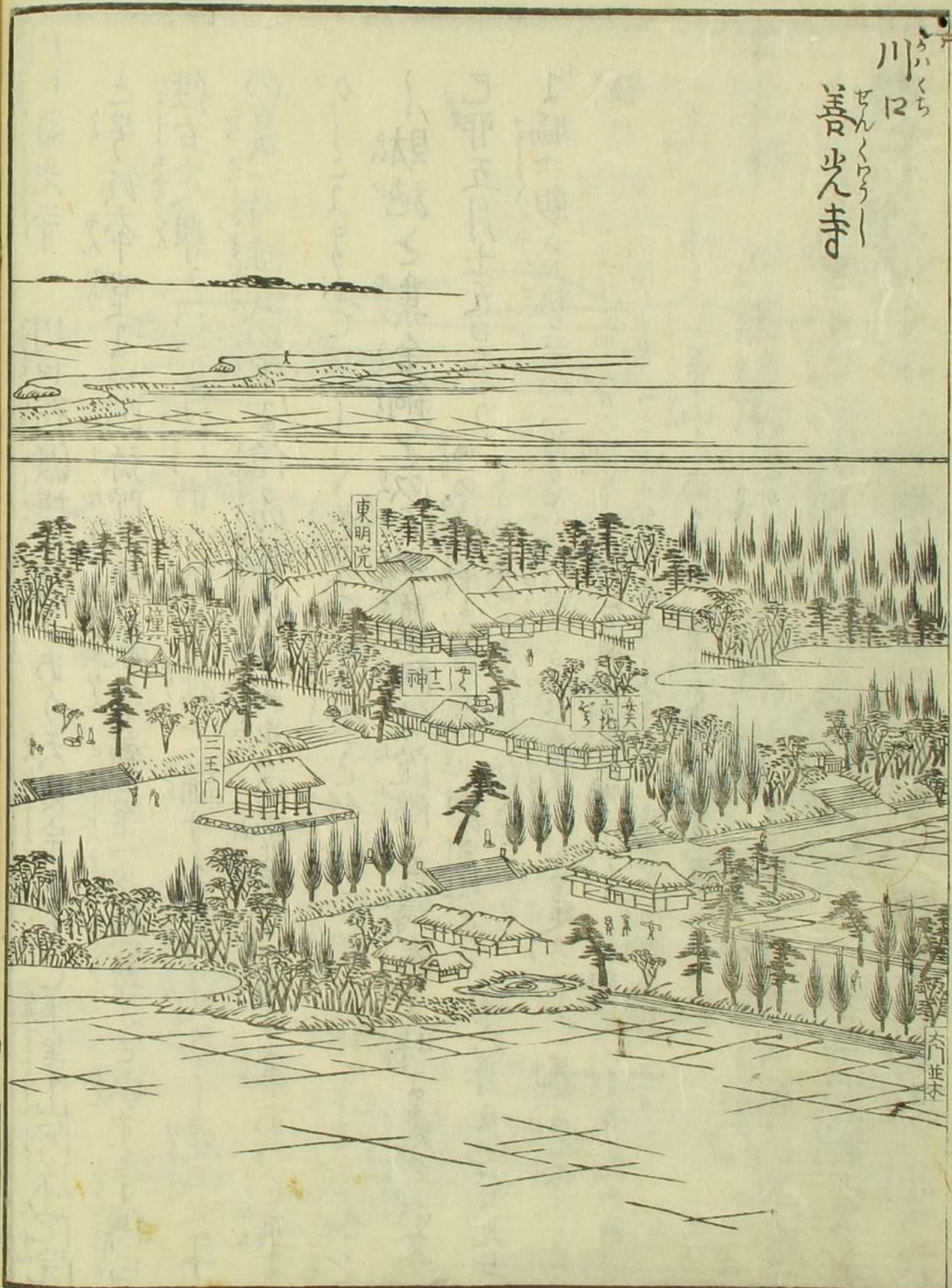
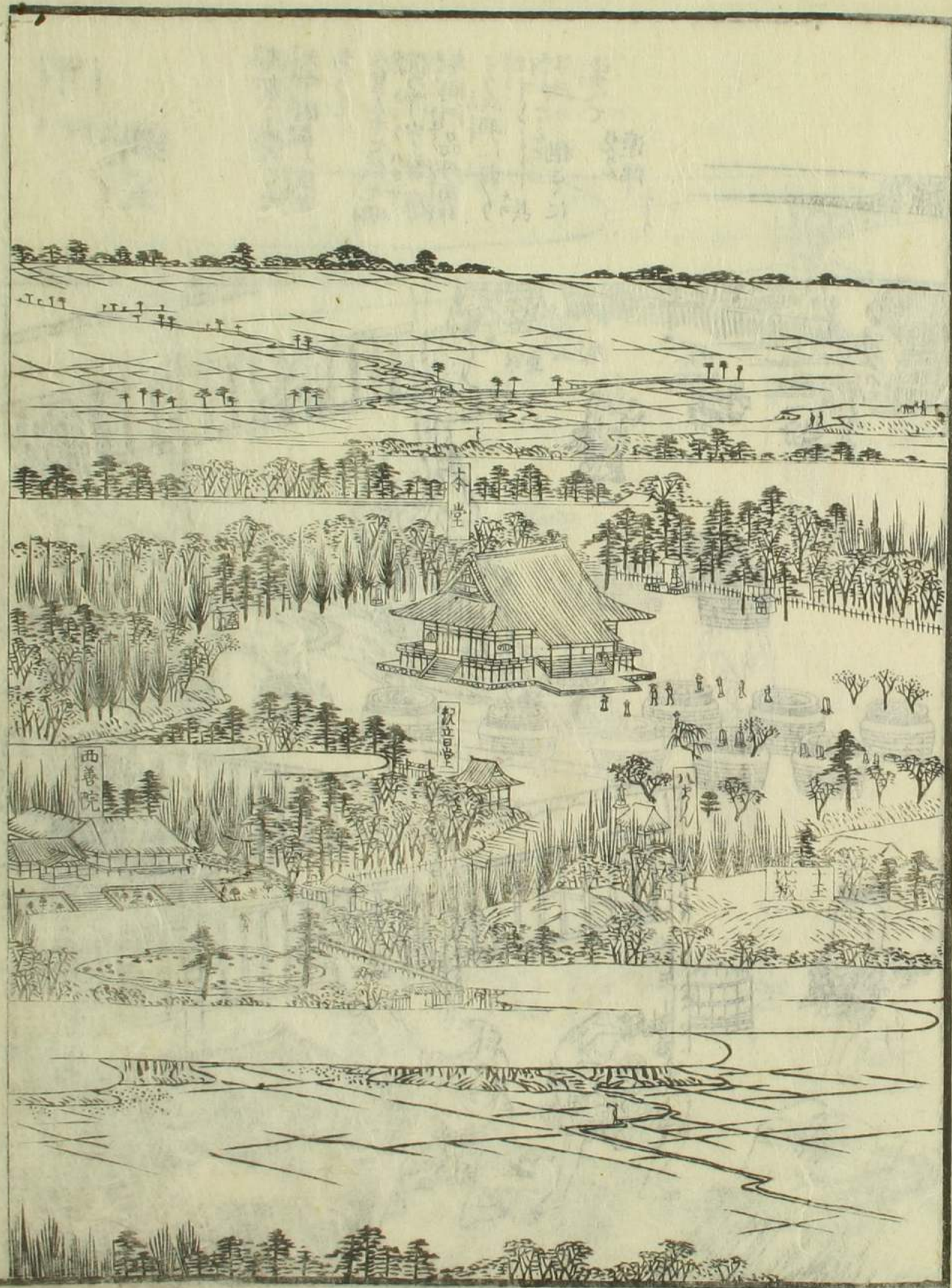
號け 當佛の頂と摩訶ことともは寢眼をたたりし 當寺縁起小詳あり

二王門の額は平等山とあり黄壁本庵の業あり

豊島驛 今豊島村と号け其跡よりて往右此郡の府あり

一と見ゆ續日本記に武藏國衆渚 今其所と云く 豊島の二駅の事を

攀たり又和名抄に武藏國豊島郡とあり中驛家と記せるは是ら六



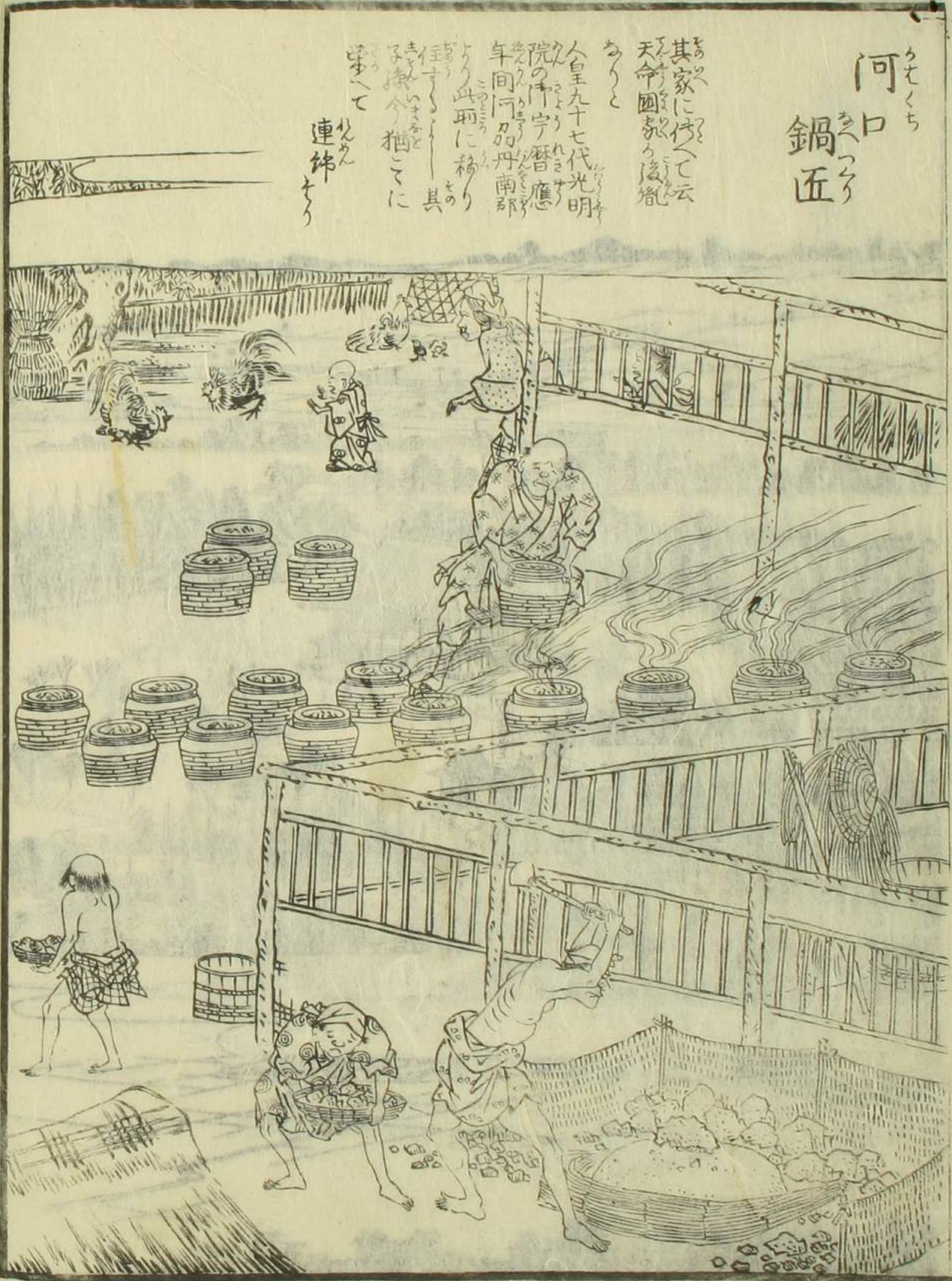
川口
善光寺

六井本

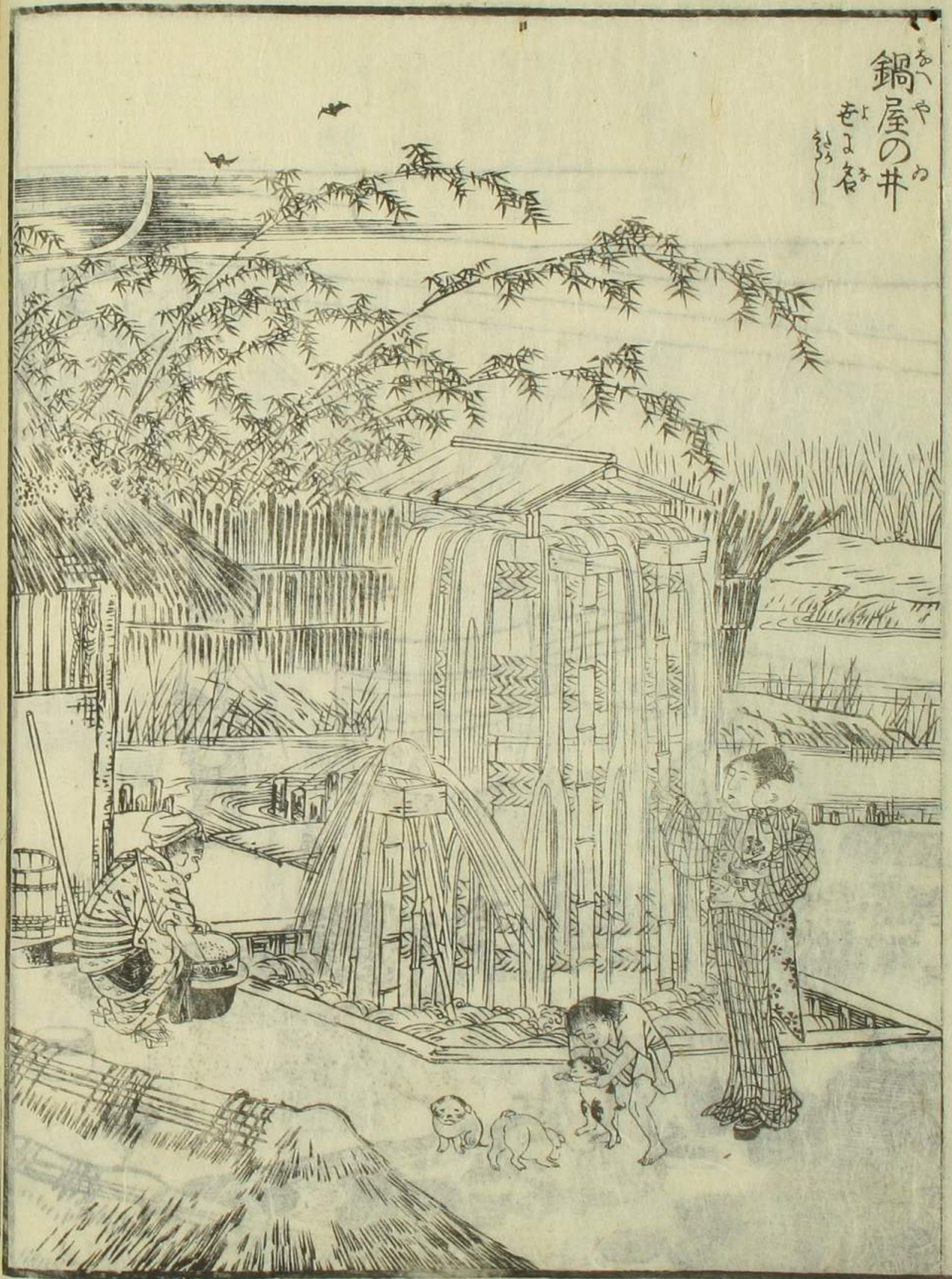


河カ口ク
鍋ナベ匠シヨウ

其家そのについて云
天命あまの國くには後後ごご後ごご後ごご
あつと
人皇ひと九く七しち代だい光明くわうめい
院いんのつ宇う智ち應おう
年ねん同どう河か丹たん南なん郡ぐん
此こゝ所ところに移り
住すす其
子こ孫そん今いま猶なほここに
ままへて
連れん綿めん
と



鍋屋の井
せよ各



此地ありん歟 或云豊島郡... 大宮三屏 盛負豊島又右屏... 正月... 阿弥陀如来も同作あり

三縁山西福寺

豊島あり 禪宗あり 行基菩薩の完基あり 奉尊

阿弥陀如来も同作あり 豊島権頭清光建友 當寺ハ六阿弥陀尊壹番目

梶原塚

梶原堀内豊嶋川の河曲堤の奉あり 此塚ハ古因美濃守入道貞正

墳墓あり 梶原上總介の後家養子とす 享保の頃迄ハ石碑石檀あり

洪水の時豊島川ハ崩れ込けりとして今ハ小巻の中ハ一株の杵の遺存

平塚

平塚明神の北荒島山



六

阿孫
陀

かけて

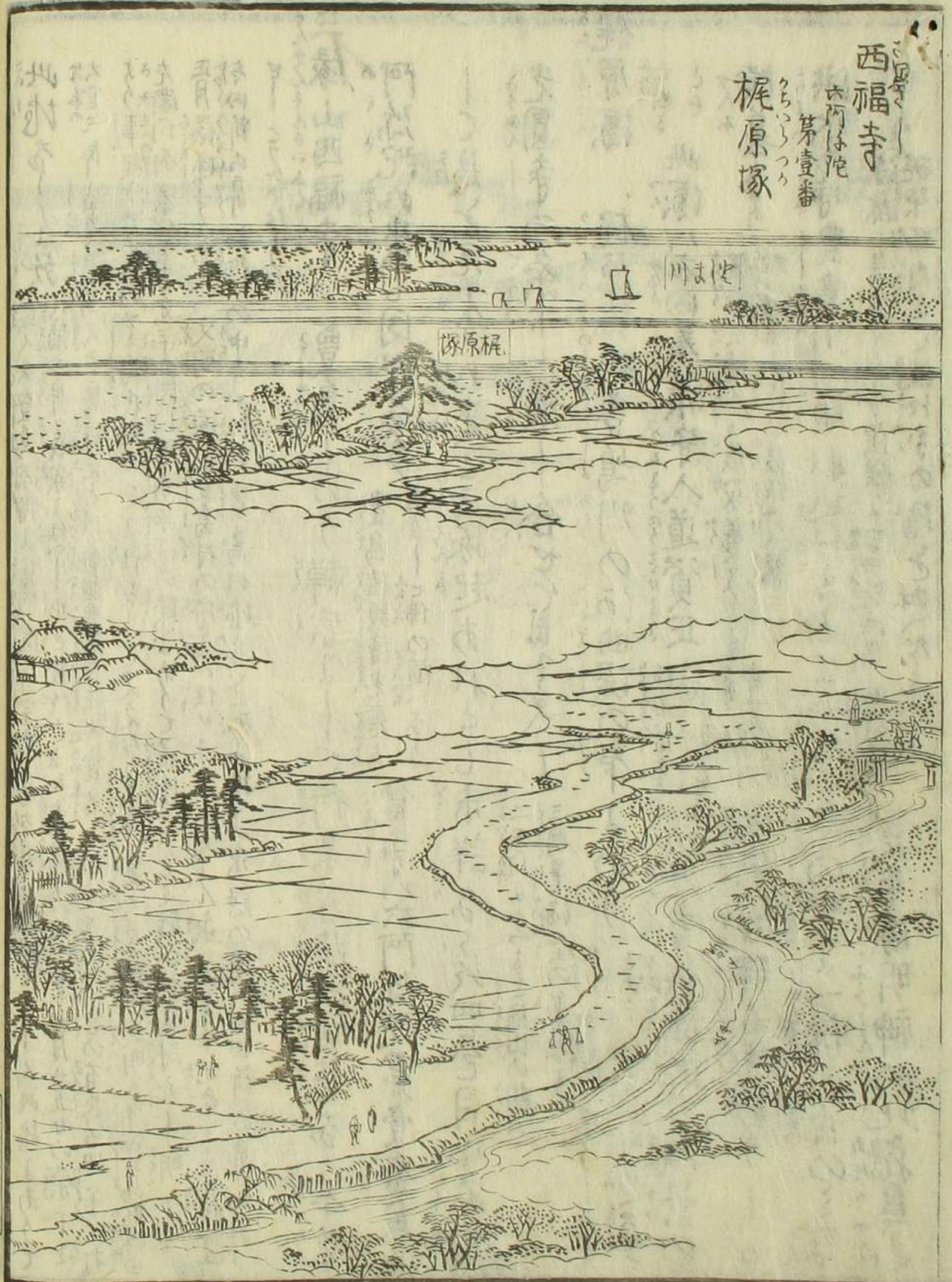
あく

らむ

石とく

きん

其角



西福寺

六阿孫陀
茅壹番

梶原塚

川又

梶原塚

梶原塚



の麓に今梶原屋鋪跡といふ所あり按之は是も政景の弟
宅の地ありん

教王山清光寺 豊島村にあり真言宗にて豊嶋権頭清光の完

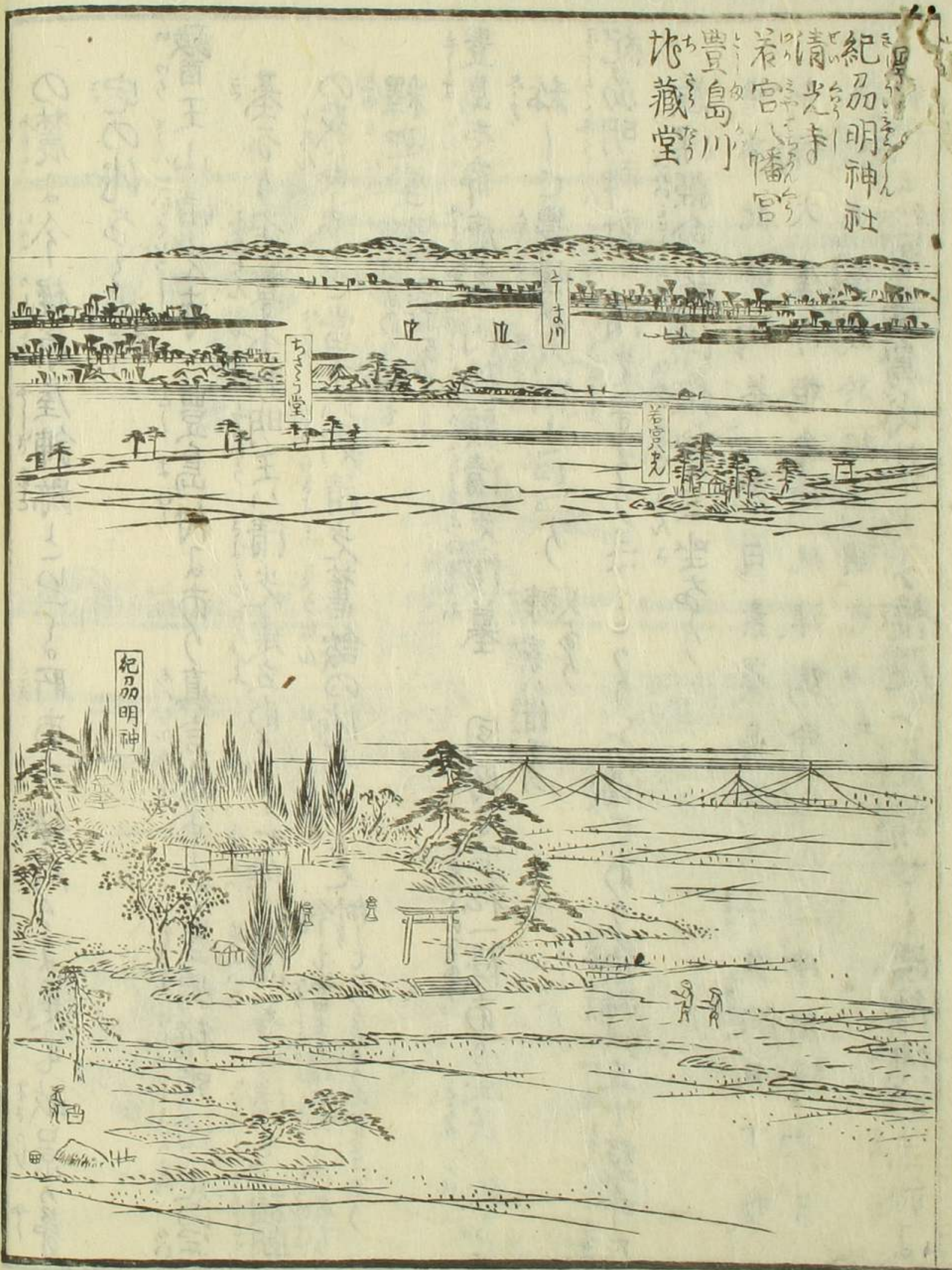
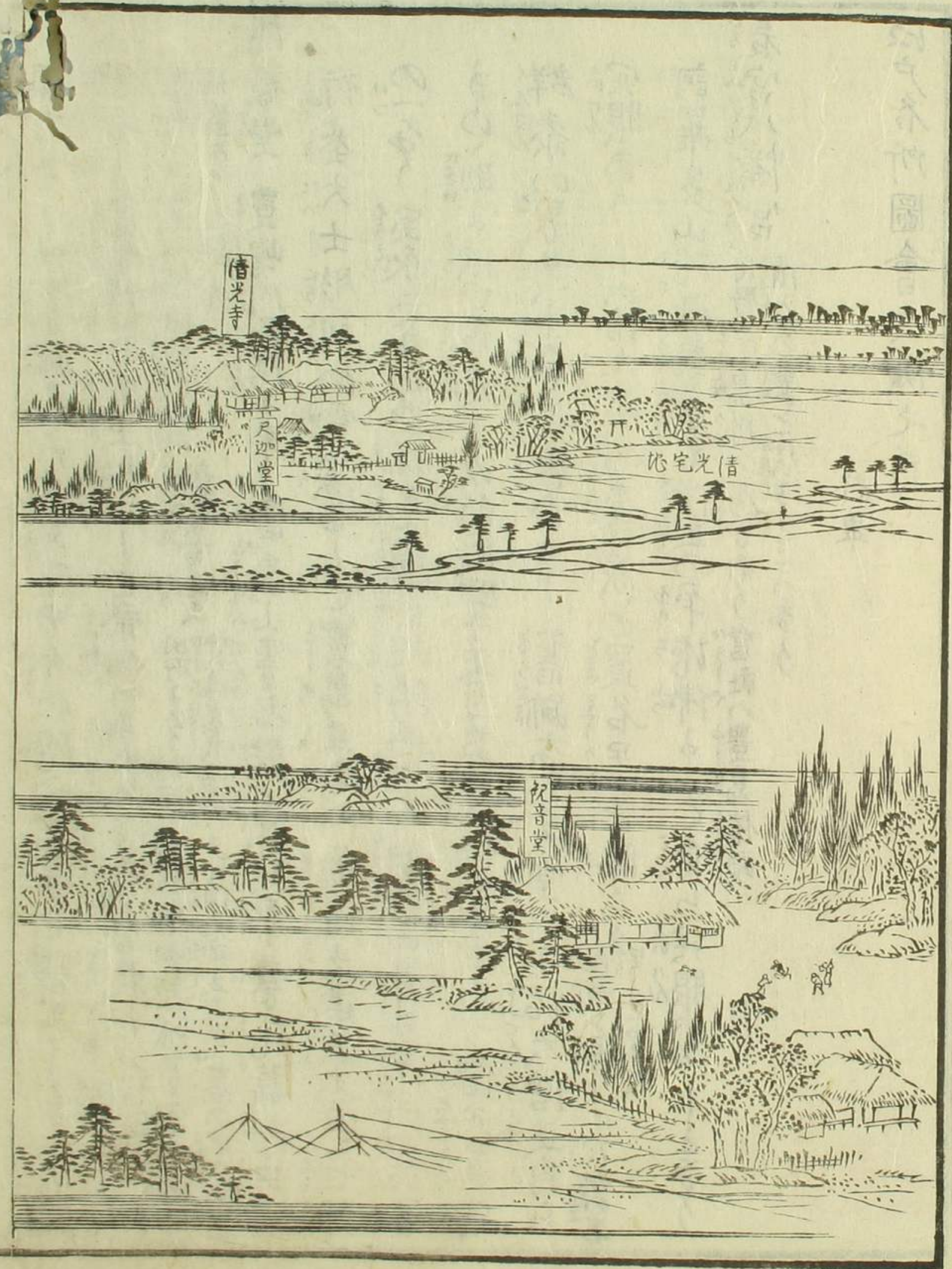
基あり奉尊不動明王の清光建之あり七佛の隨一あり清光の頼朝
の家長にて當寺ハ則清光舊館の地ありと云
今も當寺構の外に清光の
釋迦堂 境内にあり是も
七佛の中あり

豊島右衛門康家同権頭清光墳墓 同所より古松一株あり土民是を

稱して豊嶋の大松といひり 康家の清光の
紀の明神社 清光寺より三丁を隔てあり祭神ハ五十盤命大

屋津姫命 枕津姫命 三坐あり

日本紀神代卷一書曰素戔嗚尊之子號曰五十盤
命妹大屋津姫命次枕津姫命凡此三神亦能分佈
木種昂奉渡於紀伊國也云云
神傳云往古豊島氏某王子權現と勸請せし頃彼地の未社よ



紀伊明神社
 借光寺
 借光堂
 借光宅
 借光川
 借光堂

豊島町ありけりなむつて天文年中今の地小宮居と移せりと當社ハ
 昔より豊島村の産土神として祭例ハ毎家九月十八日執行ハ
 紀の初より末は彼地ハ八幡司の觀音堂 因野あり奉尊ハ尾首懸
 後裔ありとあり 昔清光の境内にて清光建立あり七佛の中あり七
 地藏堂 豊嶋川の端あり龜島山専称院と号以奉尊地藏菩薩ハ
 行基大士彫刻の靈像ありて豊島左衛門尉清光建立あり七佛
 の一あり宝永二年乙酉祐天大僧正此地の住人白倉四郎左衛門といふ
 のの助は依て再建しつゝ同四年正月廿七日入佛供養あり僧正其願
 群衆の男女十念授與ありし舊跡あり又堂内は祐天僧正自ら
 冥眼ありし六拾九家の壽像と置名号と添らる 俗是と稱して地抄の名
 訶羅多山地藏尊是も僧正の奉地佛として自ら冥眼ありしとあり
 若宮八幡宮 因野あり島川の端あり當社の豊島権頭
 清光の靈と傳るところあり

終畢

江戸名所圖會玉衡之卷



早稲田大学図書館

011688984973